教　科　名	国語	科目名	論理国語	単位数	2　単位
対 象 学 年	2年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習内容の概要	読む　（世界を広げる「批評」の言葉、対話の精神、ミロのヴィーナス、余白の美学、家族化するペット、自己をモデル化する知能、敬語への自覚、他者への自覚、スキーマと記憶、デジタル地図から見える世界、社会的実在としての言語・法・貨幣、分かち合う社会、心に海を持って、世界はいま） 書く　（具体的/抽象的に書く、統計資料から分析したことを書く、情報を集めて分析する、調べたことをレポートにまとめる）				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「書くこと」，「読むこと」の各領域において，論理的，批判的に考える力を伸ばすとともに，創造的に考える力を養い，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり，思いや考えを広げたり深めたりしながら，言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに，進んで読書に親しみ，言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	・行動の観察(学習活動への参加姿勢や態度) ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（話し合いを主とした学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート，レポート・感想文などの作成した文章）

教科書、教材など	大修館書店『論理国語』，準拠学習ノート，常用漢字ダブルクリア ，デジタル国語便覧，辞書アプリ
業　形　態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	1世界・言葉・私	世界を広げる「批評」の言葉	3	・筆者が定義することを的確に押さえ、主張をとらえ、これからの時代における書く・読む力について、自分の考えをもつ。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
			対話の精神	3	・語の定義や対比を手がかりに、筆者の主張を的確にとらえる。	
	5	中間考査	テスト・テスト直し・解説	2	・日本の文化の特徴をふまえつつ対話についての理解を深める。	
	6	2芸術と文化	ミロのヴィーナス	4	・比喩的な表現に注意しつつ、論の展開をとらえる。 ・筆者の主張をふまえて、美しさについて、理解を深める。	
			余白の美学	4	・具体例の果たす役割を理解し、その意図を適切に読み取る。	
	7				・「美」についての筆者の主張をとらえ、自分の考えを深める。	
			具体的／抽象的に書く	2	・的確に伝わるように具体的に書いたり抽象的に書いたりする。	
	8	期末考査	テスト・テスト直し・解説	2		
2	9				・統計資料や事例と筆者の主張との関係をとらえる。	
		3共同体のいま	家族化するペット	4	・社会構造の変化が、思考・感情に影響を与えることについて考えを深める。	
			統計資料から分析したことを書く	3	・資料から読み取ったことを正確に書く。 ・自分の考えと統計資料から読み取ったことを区別して書く。	
		4科学の可能性	自己をモデル化する知能	4	・論理の展開を的確に押さえ、筆者の主張をとらえる。 ・科学技術の進歩と人間の本質について、考えを深める。	
		中間考査	テスト・テスト直し・解説	2	・敬語についての筆者の主張と論理の展開を的確につかむ。	
	10	5日本語の多様性	敬語への自覚、他者への自覚	4	・敬語や若者言葉など、言葉と社会の関係に興味をもち、考えを深める。	
			情報を集めて分類する	3	・集めた情報を観点に応じて整理・分類する。	
	11		スキーマと記憶	4	・記憶や学習におけるスキーマの働きを理解し、ものの見方を広げる。	
		6思考の枠組み				
		期末考査	テスト・テスト直し・解説	2	・対比の関係を意識しながら読み論理の展開を的確にとらえる。	
			デジタル地図から見える世界	3	・デジタル地図のもたらす変化について考えを深める。 ・論の展開のしかたや、具体的なエピソードの意図を理解する。	
	12				・言語・法・貨幣がどのような存在かを読み取り、社会に対する認識を深める。	
		7　社会の原点	社会的実在としての言語・法・貨幣	4		
	1					
3					・食習慣を切り口にして人類社会の成り立ちについて考える。	
			分かち合う社会	3		
	2				・文明と海や人との関係を知り、普遍的な文明について理解を深める。	
		8　グローバル化の先へ	心に「海」を持って	4		
	3	学年末考査	テスト・テスト直し・解説	2	・グローバル時代における文化の多様性の価値を考える。	
			世界は、いま	4		
					・目的を明確にして、適切な引用を行う。	
			調べたことをレポートにまとめる	4	・多様な方法で情報を収集し、効果的な構成を考えて書く。	
備考：			合計	70		

教　科　名	国語	科目名	論理国語	単位数	２　単位
対 象 学 年	２年総合・調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習内容の概要	読む　（広がる風景、考える手がかり、人間と知性、現実の中で、ものの見方、働く喜び） 書く　（資料を整理し、テーマを吟味しよう。仮説を立てて検証しよう）				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	論理的，批判的に考える力を伸ばすとともに，創造的に考える力を養い，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（話し合いを主とした学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート，レポート・感想文などの作成した文章）

教科書、教材など	東京書籍『新編　論理国語』，学習課題ノート，常用漢字ダブルクリア ，デジタル国語便覧，辞書アプリ
業　形　態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	1広がる風景	対話とは何か	3	・対話についての筆者の考えを捉え，日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
			世界をつくり替えるために	3	・学ぶことの意味について，筆者の主張を読み取り，自分に引き寄せて考える。	
	5	中間考査	テスト・テスト直し・解説	2		
	6		論理とは何か	4	・書かれている内容を理解し，「論理的」とはどういうことかを学ぶ。	
		2考える手がかり	少女たちの「ひろしま」	4	・戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし，時代や社会について考える態度を養う。	
	7					
2	8		「ふしぎ」ということ	4	・挙げられている話題を関連づけて読み取り，「ふしぎ」ということについて考えを深める。	
	9		つなげる力	4	・「接続関係」について学び，文章を論理的に理解する力を養う。	
		期末考査	テスト・テスト直し・解説	2		
	10		資料を整理し，テーマを吟味しよう	4	・資料を集めてさまざまな観点から整理し，テーマを吟味する。	
		3人間と知性	学ぶことと人間の知恵	4	・文のつながりに着目して主張を読み取り，人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。	
	11		ラップトップ抱えた「石器人」	4	・事実と主張の関係に注意して文章を読み，人間の脳の働きについて考える。	
		中間考査	テスト・テスト直し・解説	2		
	12	4現実の中で	思考の肺活量	3	・比喩表現に注意して内容を読み取り，思考のあるべき姿について理解を深める。	
	1					
3			安心について	3	・文章構成に注意して筆者の考えを理解し，安心というものの本質について考える。	
	2		仮説を立てて検証しよう	5	・仮説を立てて検証し，検証過程を文章にまとめる。	
	3					
		期末考査	テスト・テスト直し・解説	2		
		5ものの見方	弱肉強食は自然の摂理か	3	・筆者の提示している問いや根拠に注意して読み，文章の論理展開を的確に捉える。	
			複数の「わたし」	4	・文章に示された考え方を手がかりに，「わたし」の捉え方について理解を深める。	
		6働くよろこび	はじめに「言葉」がある	4	・筆者の仕事の経験を手がかりにして，働くことと言葉の関わりについて考える。	
		学年末考査	テスト・テスト直し・解説	2	・楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。	
			楽に働くこと，楽しく働くこと	4		
備考：			合計	70		

教　科　名	国語	科目名	文学国語	単位数	2　単位
対 象 学 年	2年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	読む（内容、構成、展開、描写などをとらえ、解釈する。他作品などと比較し、文体の特徴や効果を考えたり、解釈を深めたりする。解釈を共有し、その多様性について考える。自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。） 書く（構成、表現などを工夫して文章を書く。）				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	読むことにおいて、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確にとらえている。また、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。	・文体の特徴や語りの構造に興味をもち、登場人物の心情や境遇をふまえて、作品を読み味わおうとしている。 ・舞台設定や時代背景を押さえ、作品の主題について考えを深めようとしている。
評価方法	・記述の確認（ノートなど） ・定期考査	・記述の確認（学習活動による意見の内容、ノートなど） ・定期考査	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノートなど）

教科書、教材など	大修館書店『文学国語』，準拠学習ノート，常用漢字ダブルクリア ，デジタルカラー国語便覧，辞書アプリ
業　形　態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	随想・評論１	飛ぶことを知っている魂	4	自然や身近なできごとを描いた文章に触れ、文学に親しむ。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
	5	随想・評論２	十八歳の選択	4	筆者の経験にもとづいた考えを読み取る。	
		中間考査		1		
			テスト直し・解説	1		
	6	小説１	山月記	10	「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。	
		演習	演習問題	2	文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。	
	7	期末考査		1		
			テスト直し・解説	1		
2	8	小説２	こころ	10	本格的な小説を読み味わうことで、読解に必要な総合的な力をつける。	
	9					
	10	演習	演習問題	2	文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。	
		中間考査		1		
			テスト・テスト直し・解説	1		
		小説３	山椒魚	6	構成や表現の効果に着目しながら、寓意的な表現に込められた主題を読み取る。	
	11	小説４	美神	6	舞台設定や時代背景をふまえて読む。	
		期末考査		1		
	12		テスト・テスト直し・解説	1		
		随想・評論２	月の誤訳	4	翻訳の視点から日本の言語文化の特徴をとらえる。	
	1	随想・評論３	私の日本の住居論	4	幅広い視点からの文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深める。	
	2	詩・短歌・俳句	竹	4	表現の特色や効果について理解する。	
3		学年末考査		1		
	3		テスト・テスト直し・解説	1		
		書く	体験に基づいて書く	2	自分の体験や、その体験をとおして感じたことを伝える。	
			構成を考えて書く	2	印象的に伝えるために構成を工夫する。	
備考：			合計	70		

教　科　名	国語	科目名	文学国語	単位数	2　単位
対 象 学 年	2年総合	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	言葉を学ぶ（言葉の響きを味わう，発想の展開を考える，さまざまな読み方を考える，〈執着〉する心を捉える，作品の主題を深める，作中の「謎」を考える，叙述から心情を想像する，作中の「謎」を考える，時代を超えた心情に迫る，史書が伝えるものを捉える，物語に投影された解釈を考える） 言葉を使う（読み手に興味をもたせる構成・展開を工夫する，心情の語り方を工夫する，読み手を引きつける表現を工夫する）				
科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「書くこと」，「読むこと」の各領域において，深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに，創造的に考える力を養い，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり，思いや考えを広げたり深めたりしながら，言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに，進んで読書に親しみ，言葉を効果的に使おうとしている。		
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（話し合いを主にした学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート，レポート・感想文など作成した文章）		
教科書、教材など	三省堂『新文学国語』，学習課題ノート，常用漢字ダブルクリア ，デジタル国語便覧，辞書アプリ				
業　形　態	一斉授業				

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	1 発想と感覚　文学の言葉を感じ取る	●言葉の響きを味わう 「二十億光年の孤独」	3	・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
			●発想の展開を考える	3		
	5	中間考査	「虹の雌雄」 テスト・テスト直し・解説	2		
		2 読みの深まり　解釈の多様性を楽しむ	●さまざまな読み方を考える	4	・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。	
	6		「予感」		・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する。	
		3 人間の姿と心　心情の表現に読みひたる	●〈執着〉する心を捉える 「山月記」	6	・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	
		期末考査	テスト・テスト直し・解説	2		
	7					
		表現プラザ１　みんなでつなぐリレー小説	●読み手に興味をもたせる構成や展開を工夫する 「冒頭書き出し例集」	3	・グループで同じ題材を書き継いで一つの作品をつくるなど、共同で作品制作に取り組む。	
2	8	4 作品の挑戦　作家のストラテジーを読み解く	●作品の主題を深める 「少年という名前のメカ」	6	・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使う	
	9		●作中の「謎」を考える 「バースデイ・ガール」	6	・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈する。	
	10	中間考査	テスト・テスト直し・解説	2		
		表現プラザ２　想像からの語り	●心情の語り方を工夫する 「未知へ」「夕焼け」「売炭翁」	3	・作者や登場人物の心情を自由に想像して、詩を一人称で語る文章に書き換え、お互いに批評する。	
		5 意味と解釈　表現の意味を捉え直す	●叙述から心情を想像する 「こころ」	8	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める。	
	11	期末考査	テスト・テスト直し・解説	2		
	12	6 近代の創造　近代の文章に価値を見いだす	●時代を超えた心情に迫る 「たけくらべ」	5	・できごとの経過にそって、「美登利」の気持ちの推移をまとめる。	
		表現プラザ３　現代に甦る歌物語	●読み手を引きつける表現の工夫をする 「古典和歌・近世俳句」	3	・和歌・俳句からストーリーを想像して現代版歌物語を書き、交流する。	
3	1	7 史実と虚構　歴史の語り方について考える	●史書が伝えるものを捉える 「項羽と劉邦―『史記』を読む」	5	・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める。	
	2					
		学年末考査	テスト・テスト直し・解説	2		
	3		●物語に投影された解釈を考える 「花山天皇の退位―『大鏡』を読む」	5		
備考：			合計	70		

教　科　名	国語	科目名	古典探究	単位数	２　単位
対 象 学 年	２年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	(ア)古典に用いられている語句の意味，用法及び文の構造を理解すること。 (イ)古典を読んで，内容を構成や展開に即して的確にとらえること。 (ウ)古典を読んで，人間，社会，自然などに対する思想や感情を的確にとらえ，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること。 (エ)古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい，作品の価値について考察すること。 (オ)古典を読んで，我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	知能・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	思考・判断・表現 「読むこと」の領域において，論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，古典などを通した先人のものの見方，感じ方，考え方との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	主体的に学習に取り組む態度 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり，思いや考えを広げたり深めたりしながら，言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに，進んで古典に親しみ，言葉を効果的に使おうとしている。		
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（話し合いを主にした学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート，レポート・感想文など作成した文章） ・自己評価		
教科書、教材など	数研出版『高等学校　古典探究』，準拠ワーク， 体系古典文法，体系漢文，デジタルカラー国語便覧				
授 業 形 態	一斉授業				

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価
1	4	【古文】 説話	十訓抄『大江山』 沙石集『兼盛と忠見』	4 4	・古典を読んで，内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・古典に用いられる語句の意味，用法及び文の構造を理解する。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
	5				・助動詞に注意して文脈をとらえ，登場人物の心情を読み取る。	
		中間考査	テスト見直し・解説	1 1	・和歌の内容と文章の関係をふまえ，登場人物の心情を読み取る。	
	6	【漢文】 故事	買履忘度 漱石枕流 華歆・王朗 画竜点睛 江南橘為江北枳	2 2 2 2	・さまざまな漢文句法を理解する。 ・鄭人のどのような態度が批判されているのかを的確にとらえる。 ・孫子荊の発現の面白さについて，自分なりの考えを形成する。 ・「華王之優劣」の意味を理由とともに的確にとらえる。 ・張僧繇の書いた竜の絵の特徴をまとめる。	
	7			3	・晏子がどのような論理で荊王たちの計略に対抗したのかをとらえる。	
		期末考査	テスト見直し・解説	1 1		
2	8 9	【古文】 歌物語	伊勢物語『初冠』 『渚の院』 大和物語『をばすて山』	3 4	・和歌に用いられている修辞法を理解し，和歌が文章の内容と一体になって表現上の効果を生み出していることを理解する。	
		【漢文】 漢詩	絶句『鹿柴』 『勧酒』	3 2	・登場人物の交流について自分のなりの考えをもち，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。 ・古典を読んで，我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。	
	10		『山中対酌』 律詩『旅夜書懐』	2 2	・漢詩の構成上・音声上の規則を理解して，読み味わう。	
		中間考査	テスト見直し・解説	1 1		
		【古文】 随筆 日記文学	枕草子『御前にて人々とも』 更級日記『東路の果て』 『物語』	4 4	・作者以外の「女房たち」がとった行動を状況ごとに順にまとめる。 ・表現に注意して文脈をとらえ，作者の物語に対する心情をまとめる。	
	11 12			4	・語句や表現に注意して文脈をとらえ，作者の物語に没頭する様子を読み取る。	
		期末考査	テスト見直し・解説 源氏物語『光源氏の誕生』	1 1		
3	1 2	物語		6	・語句や表現に注意して文脈をとらえ，「一の皇子」と「玉の男皇子」に対する帝の接し方の違いをまとめる。	
		学年末考査	テスト見直し・解説	1		
	3		源氏物語『小柴垣のもと』	1 5	・和歌に描かれている情景を，表現に注意して読み，登場人物の状況をとらえる。	
備考：			合計	70		

教　科　名	地理歴史	科目名	地理探究	単位数	２単位
対 象 学 年	第　２　学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養う。				
学習内容の概要	（１）現代世界の特色と地理的技能 現代世界の地域性や動向を地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献など地理的情報の収集、選択、処理など作業的、体験的学習を通じてとらえ、諸資料の地理的情報化や地図化などの地理的技能を身につける。 （２）地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題 異文化理解及び地理的課題の取組みに重点を置いて、それらの地域性を踏まえて追求し、現代世界の地理的認識を深め、地理的な見方、考え方を身につける。				
科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	地理的要素が、現代社会にどのように影響しているのか。地形、気候、文化などの要素が生活にどのように関係しているのかなど、多面的・多角的に比較・考察することができる。	教科書のデータ（図、表、写真など）をもとに、自分の住む地域の環境との違いを考察すると共に、ワークノートの作業諸課題に関する諸資料を見学・収集し、吟味・考察することができる。	世界地理と現代の諸課題の因果関係を公正に読み取る能力と近現代史を座標軸となる知識を踏まえて大観的に捉えることのできる能力を身につけることができる。現代世界の諸課題に対する関心を持ち、主体的・意欲的に学習活動をしている。		
評価方法	授業中の取り組む状態や、発問に対する答え方。ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。	因果関係を追及しようとする姿勢や、授業中の発問に対する答え方や、答えを探すなど、答えを導き出そうとする。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。	
教科書、教材など	「新詳地理探究」（帝国書院） 「新詳高等地図　帝国書院編集部編」（帝国書院）　「新編　地理探究　演習ノート」（帝国書院）				
授 業 形 態	一斉授業				

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1		１章 自然環境	１節　地形 ・地形の成因と地球表面の起伏	18	○世界の気候について、地域ごとの違いとその要因について理解を深める。さらに、気候区ごとの特徴や気候変動による人間生活との関係を考察する。	【関心・意欲・態度】授業への参加度やノート作成 【資料活用の技能】年表や地図の作成 【思考・判断・表現】レポートの作成・発表 【知識・理解】小テストや定期考査
	4		・地球規模の大地形			
		１学期	・河川、海岸にみられる地形　ほか			
		中間考査	２節　気候			
	5		・気候の成り立ち・世界の気候区分		○日本の自然の特徴と人々の生活について、地形や気候の特徴と、自然災害の特徴を理解するとともに、土地開発の状況などもふまえて防災のあり方を考察する。	
			・気候と植生・土壌・変化する気候	18		
			３節　日本の自然環境			
	6	１学期	・日本の地形・日本の気候			
		期末考査	・開発に伴う災害と防災			
			４節　地球環境問題		○世界の環境問題について、その背景や原因、影響、対策を多面的に考察する。また、日本国内の環境問題について発生した背景や問題解決への取り組みを考察する。	
	7		・地球環境問題・さまざまな環境問題			
			・環境問題解決に向けた取り組み			
	8	２章	１節　農林水産業			
2		資源と産業	・農業の発達と分布・農業の地域区分	18	○世界の農林水産業について、自然条件や社会条件と関連づけて農業の地域区分をとらえるとともに、現代世界の農林水産業の現状と課題を考察する。また、世界のなかでの日本の農林水産業の課題を考察する。	
	9		・現代世界の農業の現状と課題			
		２学期	・日本の農業の現状と課題			
		中間考査	・世界と日本の林業・水産業			
	10		２節　食料問題			
			・世界、日本の食料問題		○食料問題について、世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国と先進国の事例を考察する。また、日本が抱える食料問題を考察する。	
			３節　エネルギー・鉱産資源			
	11		・資源・エネルギーをめぐる課題			
		２学期	４節　資源・エネルギー問題			
		期末考査	・資源・エネルギーをめぐる問題		○世界のエネルギー・鉱産資源について、それぞれの種類や分布、利用の現状や方法を考察する。	
	12		・日本の資源・エネルギー問題			
			５節　工業			
	1		・工業の発達と種類		○資源・エネルギー問題について、世界と日本の資源・エネルギー問題を大観し、問題の原因や近年の動向、問題解決の取り組みを考察する。また、日本が抱える資源・エネルギー問題を考察する。	
3			・工業の立地　・世界の工業地域	16		
	2		・現代世界の工業の現状と課題			
		学年末考査	・工業の知識産業化とｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ企業			
	3		・日本の工業			
			６節　第３次産業		○世界の工業がどのように発展し、どのように変化してきたのかを考察する。	
			・経済発展と第３次産業			
			・商業の現状と課題		○物やサービスの需要が高まり、第３次産業がどのように発展したのかを考察する。	
			・商業以外のさまざまな第３次産業			
備考：			合計	70		

教　科　名	地理歴史	科目名	地理探究	単位数	３単位
対 象 学 年	第２学年総合	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養う。				
学習内容の概要	（１）現代世界の特色と地理的技能 現代世界の地域性や動向を地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献など地理的情報の収集、選択、処理など作業的、体験的学習を通じてとらえ、諸資料の地理的情報化や地図化などの地理的技能を身につける。 （２）地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題 異文化理解及び地理的課題の取組みに重点を置いて、それらの地域性を踏まえて追求し、現代世界の地認識を深め、地理的な見方、考え方を身につける。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	地理的要素が、現代社会にどのように影響しているのか。地形、気候、文化などの要素が生活にどのように関係しているのかなど、多面的・多角的に比較・考察することができる。	教科書のデータ（図、表、写真など）をもとに、自分の住む地域の環境との違いを考察すると共に、ワークノートの作業諸課題に関する諸資料を見学・収集し、吟味・考察することができる。	世界地理と現代の諸課題の因果関係を公正に読み取る能力と近現代史を座標軸となる知識を踏まえて大観的に捉えることのできる能力を身につけることができる。現代世界の諸課題に対する関心を持ち、主体的・意欲的に学習活動をしている。

評価方法			
授業中の取り組む状態や、発問に対する答え方。ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。	因果関係を追及しようとする姿勢や、授業中の発問に対する答え方や、答えを探すなど、答えを導き出そうとする。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。

教科書、教材など	「新詳　地理探究」（帝国書院）　「新詳　地理探究　演習ノート」（帝国書院） 「帝国書院編集部編　新詳高等地図」（帝国書院）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	１部 世界の諸地域の姿と地球的課題	２節　人々の生活と気候 １ 生活と気候のかかわり	28	○気候の特徴と人間生活とのかかわりについて考察する。	【関心・意欲・態度】授業への参加度やノート作成
		１学期	熱帯　乾燥帯　温帯　亜寒帯･寒帯 それぞれの気候と人々の生活		○気候区分の分布の特徴を考察する。 ○熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の分布や特徴を理解する。また、それぞれの地域に暮らす人々の生活について理解する。	【資料活用の技能】年表や地図の作成
	5	中間考査	３節　人々の生活と産業・文化	26	○農業の発達と種類について理解する。	
	6		１ 生活を支える世界の農業		○先進国と発展途上国の工業について、それぞれの特徴と近年の変化を考察する。	【思考・判断・表現】レポートの作成・発表
		１学期			○宗教と民族、言語など、人びとの生活との関わりを理解する。	
		期末考査	２ 生活を支える世界の工業			
	7				○人々の生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。	
	8		３ 生活と文化のかかわり			
2	9	２学期 中間考査	３章　近隣諸国の生活･文化	35	○日本との共通性・異質性を地理的に考察する視点や方法によって中国、韓国の生活・文化の特色を理解する。	【知識・理解】小テストや定期考査
			１節　中国の生活・文化			
	10		２節　韓国の生活・文化			
			３節　東南アジアの生活・文化		○世界各地、地域の人々の生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。	
	11	２学期 期末考査	４節　南アジアの生活・文化			
			５節　中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化			
	12					
	1		６節　サハラ以南のアフリカの生活・文化			
3	2	学年末考査	７節　ヨーロッパの生活・文化	16		
	3		８節　ロシアの生活・文化			
			９節　アメリカの生活・文化			
備考：		合計		105		

教　科　名	地理歴史	科目名	地理総合	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	

科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養う。
学習内容の概要	（１）現代世界の特色と地理的技能 現代世界の地域性や動向を地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献など地理的情報の収集、選択、処理など作業的、体験的学習を通じてとらえ、諸資料の地理的情報化や地図化などの地理的技能を身につける。 （２）地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題 異文化理解及び地理的課題の取組みに重点を置いて、それらの地域性を踏まえて追求し、現代世界の地理的認識を深め、地理的な見方、考え方を身につける。

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	地理的要素が、現代社会にどのように影響しているのか。地形、気候、文化などの要素が生活にどのように関係しているのかなど、多面的・多角的に比較・考察することができる。	教科書のデータ（図、表、写真など）をもとに、自分の住む地域の環境との違いを考察すると共に、ワークノートの作業諸課題に関する諸資料を見学・収集し、吟味・考察することができる。	世界地理と現代の諸課題の因果関係を公正に読み取る能力と近現代史を座標軸となる知識を踏まえて大観的に捉えることのできる能力を身につけることができる。現代世界の諸課題に対する関心を持ち、主体的・意欲的に学習活動をしている。

評価方法				
	授業中の取り組む状態や、発問に対する答え方。ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。	因果関係を追及しようとする姿勢や、授業中の発問に対する答え方や、答えを探すなど、答えを導き出そうとする。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。

教科書、教材など	「高等学校　新地理総合」（帝国書院）　「新詳高等地図」（帝国書院） 「高等学校　新地理総合ノート」（帝国書院）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4		第１部　地図でとらえる現代世界	12	○緯度、経度、自転、公転など、基本的なことを理解するとともに、世界各地の気候や地形と、地図の種類や用途を考察する。	・関心 ・意欲 ・態度 ・授業への参加度やﾉｰﾄ作成、作業姿勢 ・資料活用 ・技能 ・地図の活用 ・白地図の作成 ・思考 ・判断 ・表現 ・レポートの作成・発表 ・知識・理解 ・定期考査
		１学期	第１章　地図と地理情報システム			
	5	中間テスト	１節　地球上の位置と時差			
			２節　地図の役割と種類			
			第２章　結びつきを深める現代世界		○世界の地形と領域を理解するとともに、人々の	
	6		１節　現代世界の国家と領域	14	生活が、産業や文化、慣習など、どのように結	
		１学期	２節　グローバル化する世界		びついているかを考察する。	
		期末テスト				
	7		第２部　国際理解と国際協力		○世界の地域の人々の生活・文化を考察する。	
			第１章　生活文化の多様性と国際理解	18	○地域ごとに考察し、気候や歴史、産業、文化などを理解し、日本との異質性を考察する。	
	8		１節　世界の地形と人々の生活			
			２節　世界の気候と人々の生活		○地域ごとに気候を学ぶだけでなく、歴史や宗教	
	9	２学期	３節　世界の言語・宗教と人々の生活		などの社会環境が、どのように人々の生活に関	
		中間テスト	４節　歴史的背景と人々の生活		わっているかを考察する。	
2			５節　世界の産業と人々の生活		○世界各地の産業が、その地域の人々の生活にど	
	10				のように影響しているのかを理解する。	
			第２章　地球的課題と国際協力	12	○人間活動の中で、地球的課題である環境問題に	
	11		１節　複雑に絡み合う地球的課題		はどのようなものがあるのかを確認する。	
		２学期	２節　地球環境問題		人間活動と環境問題の因果関係を考察する。	
		期末テスト	３節　資源・エネルギー問題		環境問題の現状や課題、解決策を理解する。	
	12		４節　人口問題		○人口問題や食料問題において、地域ごとに原	
			５節　食料問題		因が異なったり、現状や対策、解決策などが	
	1		６節　都市･居住問題		異なったりすることを理解する。	
	2		第３部　持続可能な地域づくりと私たち	12	○日本国内や自分たちの生活する地域でおこった自然災害や、世界で見られた自然災害の状	
		３学期	第１章　自然環境と防災			
3	3	学年末考査	１節　日本の自然環境		況、災害の頻度、地形などを考察する。	
			２節　地震・津波と防災		○災害が発生した地域、気候などの自然環境との	
			３節　火山災害と防災		因果関係や、人間活動との関わりを考察する。	
			４節　気象災害と防災		○自然災害に対しての対策や、減災への取り組み	
			５節　自然災害への備え		を理解する。	
			第２章　生活圏の調査と地域の展望	2	○地域の成り立ちや、生活圏にある施設や文化財	
			１節　生活圏の調査と地域の展望		などを調査することで、地域の理解を深める。	
備考：			合計	70		

教　科　名	数学	科目名	数学A	単位数	２単位
対 象 学 年	２年調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を養い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を				
学習内容の概要	第１章　場合の数と確率　　第２章　図形の形質　　第３章　整数の性質				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。
評価方法	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する
教科書、教材など	教科書　最新 数学A(数研出版) 新高校の数学Aポイントノート（数研出版）		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	第1章　場合の数と確率	第1節　順列・組合せ	25	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	考査 授業 取組 課題 ※以下同じ
	5	1学期中間考査	第2節　確率			
	6	1学期期末考査	第1節　平面図形	25	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	7	第2章　図形の性質	第2節　空間図形			
2	9	2学期中間考査				
			整数の性質	20	整数の性質についての理解を深め，それを事象の考察に活用できるようにする。	
	10	2学期期末考査 第3章　整数の性質				
	11		問題演習			
	12	学年末考査				
3	1					
	2					
	3					
備考：			合計	70		

教　科　名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	３単位
対 象 学 年	２年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用す				
学習内容の概要	第1章　式と証明　　第2章　複素数と方程式 第3章　図形と方程式　　第4章　三角関数 第5章　指数関数と対数関数　第6章　微分法と積分法				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する
教科書、教材など	高等学校　数学Ⅱ(数研出版)		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	第2章　複素数と方程式	第2節　高次方程式	4	方程式についての理解を深め，数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。（復習）	考査 授業 取組 課題 ※以下同じ
	5	第3章　図形と方程式	第1節 点と直線	10	座標や式を用いて，直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	
			第2節　円	8		
		１学期中間考査	第3節　軌跡と領域	6		
		第4章　三角関数	第1節 三角関数	11	角の概念を一般角まで拡張して，三角関数及び三角関数の加法定理について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	6		第2節　加法定理	8		
		１学期期末考査				
	7					
2		第5章　指数関数と対数関数	第1節　指数関数	5	指数関数及び対数関数について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	9					
			第2節　対数関数	7		
		第6章　微分法と積分法	第1節　微分係数と導関数	7	微分・積分の考えについて理解し，それらの有用性を認 識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	
	10	２学期中間考査				
	11		第2節　関数の値の変化			
		２学期期末考査		8		
			第3節 積分法			
		問題演習	問題演習	11	今まで習った範囲の復習・演習を行う。	
備考：			合計	105		

教　科　名	数学	科目名	数学C	単位数	１単位
対 象 学 年	２年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第1章　平面上のベクトル				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する
教科書、教材など	高等学校　数学C(数研出版)		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
2	12	第1章　平面上のベクトル	第1節　ベクトルとその演算	14	向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し，成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また，ベクトルの内積について理解し，平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
3	1					
	2		第2節　ベクトルと平面図形	14		
	3	学年末考査	問題演習	7		
備考：			合計	35		

教　科　名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	３単位
対 象 学 年	2年総合	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第1章　複素数と方程式　　第2章　図形と方程式 第3章　三角関数　　第4章　指数関数・対数関数 第5章　微分法と積分法				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する
教科書、教材など	最新 数学Ⅱ(数研出版)		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価
1	4	第1章　複素数と方程式	第1節　式の計算	10	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに，等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。方程式についての理解を深め，数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 座標や式を用いて，直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5		第2節　複素数と方程式	17		
		１学期中間考査				
	6		第3節　式と証明	2		
		第2章　図形と方程式	第1節　点と直線	13		
	7					
		１学期期末考査				
2	8		第2節　円	10		
	9					
		第3章　三角関数	三角関数	15	角の概念を一般角まで拡張して，三角関数及び三角関数の加法定理について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	10	２学期中間考査				
		第4章　指数関数と対数関数	第1節　指数関数	9	指数関数及び対数関数について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	11		第2節　対数関数	8		
	12	２学期期末考査				
3	1	第5章　微分法と積分法	第1節　微分法	13	微分・積分の考えについて理解し，それらの有用性を認 識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	
		学年末考査				
	2		第2節　積分法	8		
	3					
備考：		合計		105		

教　科　名	数学	科目名	数学B	単位数	２単位
対 象 学 年	２年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	数列，統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるよう				
学習内容の概要	第1章　数列　　第2章　統計的な推測 第3章　数学と社会生活				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する

教科書、教材など	教科書　高等学校数学B（数研出版），問題書 4プロセス数学Ⅱ＋B（数研出版）， 参考書　Focus Gold 数学Ⅱ＋B（啓林館）
業　形　態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	第1章　数列	第1節　等差数列と等比数列	10	数列やその一般項の表し方について理解する。また，基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し，それらの和を求められるようにする。また，これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5					
		１学期中間考査				
	6					
			第2節　いろいろな数列	9	和の記号Σの表し方や性質を理解し，活用できるようにする。また，いろいろな数列について，その一般項や和を求めたり，和から一般項を求めたりできるようにする。	
	7					
		１学期期末考査	第3節　漸化式と数学的帰納法	14	数列の帰納的な定義について理解し，漸化式から一般項が求められるようにするとともに，複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また，数学的帰納法の仕組みを理解し，様々な命題の証明に活用できるようにする。	
	8					
	9	第2章　統計的な推測	第1節　確率分布	10	確率変数と確率分布について理解し，期待値や分散，標準偏差などを求めることを通じて，分布の特徴を把握できるようにする。また，連続型確率変数についても理解し，正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	
	10	２学期中間考査				
2	11		第2節　統計的な推測	6		
	12	２学期期末考査				
	1	第3章　数学と社会生活		7	社会生活などにおける問題を，数学を活用して解決する意義について理解するとともに，日常の事象や社会の事象などを数学化し，数理的に問題を解決する方法を知り，積極的に数学を活用する姿勢を培う。	
	2	学年末考査				
3	3	問題演習	問題演習	14		
備考：			合計	70		

教　科　名	理科	科目名	化学基礎	単位数	２単位
対 象 学 年	２年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	化基709
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付け，科学的に探究する力を養				
学習内容の概要	物質の構成と化学結合・物質の変化				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	物質とその変化についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。
評価方法	日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察，実験などを行い，探究の過程を通して，情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，実験データの分析・解釈，報告書の作成や発表などの探究の方法を習得し，科学的に探究する力を身に付けている。	物質とその変化に主体的に関わり，主体的に探究しようとする態度を身に付けている。

教科書、教材など	数研『高等学校 化学基礎』()
業　形　態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価
1	4	序章　化学と人間生活	物質を対象とする学問である化学の特徴について理解する。	2	科学的に探究する方法を理解するとともに，身近な物質の探究に必要な基本操作を身に付けている。	
		″１章　物質の構成 １節　物質の探究″	物質の分離や精製など,単体，化合物について理解し	4	物質の分離・精製や元素の確認，状態変化などについて理解するとともに，実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。	
		″１章　物質の構成 ２節　物質の構成粒子	粒子の熱運動と温度の関係，粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解する。	2 4		
	5	″		3	物質の構成粒子について理解するとともに，実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。	
		″２章　物質と化学結合 １節　イオン結合″	原子の構造及び陽子，中性子，電子の性質を理解する。	2	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解するとともに，実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。	
			イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。	4		
	6	″２章　物質と化学結合 ２節　共有結合″	共有結合を電子配置と関連付けて理解する。	4		
			分子からなる物質の性質を理解する。	4	共有結合を電子配置と関連付けて理解するとともに，実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。また，分子からなる物質の性質を理解している。	
	7	″２章　物質と化学結合 ３節　金属結合″	金属結合及び金属の性質を理解する。	4	金属結合を電子配置と関連付けて理解するとともに，金属の性質を理解している。	
2			身近な結晶の性質を調べる実験を行い，電子配置や化学結合の種類と関連付けて理解する。	5		
	9			5		
	10	″３章　物質の変化 １節　物質量と化学反応式″	物質量と粒子数，質量，気体の体積との関係について理解する。	2 5	科学的に探究する方法を理解するとともに，身近な物質の探究に必要な技能を身に付けている。″ 物質量と化学反応式について理解するとともに，実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。	
	11		化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。	6		
		″３章　物質の変化 ２節　酸と塩基″	酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。	6	酸・塩基と中和について理解するとともに，器具の扱い方や溶液の調製方法など滴定操作における基本的な技能を身に付けている。	
	12					
3	1	″３章　物質の変化 ３節　酸化還元反応″	酸化と還元が電子の授受によることを理解する。また，酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。	4 1	酸化と還元について理解するとともに，実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。	
	2	終章　化学が拓く世界				
	3		化学基礎で学んだ事柄が，日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解する。	2	日常生活や社会を支えている科学技術について理解している。	
備考：			合計	70		

教　科　名	理科	科目名	地学基礎	単位数	2　単位
対 象 学 年	年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付け，科学的に探究する力を養う。				
学習内容の概要	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，自然環境の保全に寄与する態度を養う。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	観察・実験等を行い，レポートを書く。観察・実験に対する姿勢，予想や考察，器具の操作，報告書など	授業内容を適切にまとめているか，科学的な思考ができているかなど	授業に対する姿勢，学習態度，地学への関心等で判断する。評価の観点のうち，特に主体的に学習に取り組む態度
評価方法	観察・実験等を行い，レポートを書く。観察・実験に対する姿勢，予想や考察，器具の操作，報告書などから評価する。	問題への取り組み，取り組んだ内容から評価する。	評価の観点のうち，特に主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。

教科書、教材など	啓林館「高等学校　地学基礎」　　生物基礎の基本マスター
業　形　態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	第1部　固体地球とその活動	地球の概観	4	Ａ固体地球の表面/Ｂ地球の形	
		第１章地球(6)	地球の内部構造	2	Ａ地殻とマントル/Ｂ核	
		第２章活動する地球(16)	プレートテクトニクスと地球の活動	6	Ａプレート/Ｂプレート境界と地球の活動/Ｃプレートの動き/Ｄ大地に記録されたプレート運動 Ａ地震の分布/Ｂ地震の発生と断層/Ｃマグニチュードと震度/Ｄ地震波からわかること	
			地震	5		
			火山活動と火成岩の形成	5	Ａマグマと火山の噴火/Ｂ火山の分布/Ｃ噴火の様式/Ｄ火山噴出物/E火成岩の産状と組織/F鉱物/Ｇ火成岩の分類	
	5	第２部　大気と海洋	大気圏			
		第１章大気の構造(5)	水と気象	4		
			地球のエネルギー収支	1	Ａ大気の組成/Ｂ気圧と気温/Ｃ大気圏の構造	
		第２運動章			Ａ大気中の水蒸気/Ｂ雲の発生	
		太陽放射と大気・海水の (8)	大気の大循環	2	Ａ太陽放射エネルギー/Ｂ地球のエネルギー収支	
			海水の循環	4		
	6	第３章日本の天気(3)	日本の位置	4	Ａ緯度による放射・吸収の違い/Ｂ熱の輸送/Ｃ風の吹き方/Ｄ大気の大循環	
			冬から春の天気	1	Ａ海水/Ｂ海洋の層構造/Ｃ海流/Ｄ深層の流れ/Ｅ海洋と気候	
			夏から秋の天気		Ａ偏西風の影響/Ｂ大陸と海の影響	
		(16)			Ａ冬の天気/Ｂ春の天気	
		第３部　移り変わる地球	宇宙の誕生	3	Ａ梅雨/Ｂ夏の天気/Ｃ台風/Ｄ秋の天気	
	7				Ａ宇宙のはじまり/Ｂ太陽の誕生	
		第１章地球の誕生(6)	太陽系の誕生	3	Ａ太陽系の誕生/Ｂ惑星の特徴/Ｃ生命を生み出す環境	
		第２章地球と生命の進化(8)	先カンブリア時代	3	Ａ冥王代-地球の誕生-/Ｂ太古代-生命の誕生-/Ｃ原生代-多細胞生物の出現-	
2	9		顕生代	5	Ａ古生代-生物の多様化と上陸-/Ｂ中生代-陸上生物の多様化と発展-/Ｃ新生代-哺乳類の時代-/Ｄ地球環境と生命の進化/Ｅ地質年代の区分	
		第３章地球史の読み方(8)	地層からわかること	1		
			地層の形成	4		
			地層の読み方	3		
	10	(22)				
		第４部 自然との共生	地球環境と人類	1	Ａ砕屑物の形成/Ｂ流水のはたらき/Ｃ堆積構造/Ｄ堆積岩とその分類	
			地震災害・火山災害	1	Ａ過去の地殻変動/Ｂ化石/Ｃ地層の対比	
	11					
			気象災害	1	Ａ地球環境の変化の時間・空間スケール/Ｂ自然の恩恵	
					Ａ地震と災害/Ｂ火山と災害	
		(10)	災害と社会	3	Ａ大雨による災害/Ｂ突風による災害/Ｃ地域や季節に特有の気象災害	
	12		人間生活と地球環境の変化	4		
3	1				Ａ地震の観測と対策/Ｂ火山の観測と対策/Ｃ気象の観測と対策/Ｄ防災・減災への取り組み	
					Ａ地球規模の環境の変化/Ｂ地域的な環境の変化	
	2					
	3					
備考：			合計	70		

教　科　名	理科	科目名	化学基礎	単位数	２　単位
対 象 学 年	２年総合	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	化基705
科目の目標	主体的に自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。				
学習内容の概要	主体的に物質とその変化に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	物質とその変化についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。
評価方法	日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察，実験などを行い，探究の過程を通して，情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，実験データの分析・解釈，報告書の作成や発表などの探究の方法を習得し，科学的に探究する力を身に付けている。	物質とその変化に主体的に関わり，主体的に探究しようとする態度を身に付けている。

教科書、教材など	アクセスノート化学基礎　新課程版
業　形　態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	序章　化学と人間生活	これから学習する「化学」とは何だろうか 実験を安全に行うために 実験の進め方	2	科学的に探究する方法を理解するとともに，身近な物質の探究に必要な基本操作を身に付ける。 身近な物質の探究に関する事物・現象の中に問題を見いだし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考え方を的確に表現する。	活動実験レポート板書発表宿題考査の成績を総合して評価
		１章　物質の構成	物質の分離･精製、元素の確認実験を行い，基本操作と探究する方法を身に付ける。	4		
		１節　物質の探究		4	物質の分離・精製や元素の確認，状態変化などについて理解し、科学的に探究する力を身に付ける。	
	5			4		
		２節　物質の構成粒子	・イオンの生成･イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。		イオンの生成を電子配置と関連付けて理解 イオンやイオン結合の性質についての観察，実験を行い，科学的に探究する力を身に付けている。	
		２章　物質と化学結合		4		
		１節　イオン結合	・共有結合・分子からなる物質の性質を理解する。	4	共有結合を電子配置と関連付けて理解するとともに，実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。	
		２節　共有結合		4		
	6					
		３節　金属結合	・金属結合・身近な結晶を，電子配置や化学結合の種類と関連付けて理解する。	4	共有結合を電子配置と関連付けて理解するとともに，実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。 金属結合を電子配置と関連付けて理解するとともに，金属の性質を理解している。	
	7	３章　物質の変化	・物質量と粒子数，質量，気体の体積との関係について理解する。	4	物質量と化学反応式について理解するとともに，実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている	
		１節　物質量と化学反応式			物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現できる。	
2			・化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。	4	物質と化学反応式に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
	9			4		
		２節　酸と塩基	酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。	6	酸・塩基と中和について理解し，器具･溶液の調製方法など滴定操作における基本的な技能を身に付け、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
	10			4	酸化と還元について理解するとともに，実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。	
		３節　酸化還元反応	・酸化と還元が電子の授受によることを理解する。		酸化と還元についての観察，実験を行い，科学的に探究する力を身に付けている。	
	11		また，酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。	4		
				6	酸化と還元に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
	12	終章　化学が拓く世界	化学基礎で学んだ事柄が，日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解する。	4	日常生活や社会を支えている科学技術について理解している。 日常生活や社会を支えている科学技術についての観察，実験を行い，科学的に探究する力を身に付けている。	
3	1			4	日常生活や社会を支えている科学技術に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
	2					
	3					
備考：			合計	70		

教　科　名	理科	科目名	物理	単位数	３単位
対 象 学 年	第２学年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	物理701
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付け，科学的に探究する力を養う。				
学習内容の概要	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	観察、実験などを通して、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	テスト 課題	観察・実験への取り組み 実験レポート	授業への取り組み 板書、発表　　意思表示
教科書、教材など	東京書籍「物理」(物理７０１)		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	1編　さまざまな運動1章　平面内の運動 １節　平面内の運動 ２節　放物運動 2章　剛体のつり合い １節　剛体と力のモーメント（6h）	剛体のつり合い 重心 力積	９	曲線上を運動する物体の運動（加速度）はどのように表現すればよいか考える。 平面内での相対速度とその求め方について理解する。	活動実験レポート板書発表宿題考査の成績を総合して評価
				９	「物理基礎」で学習した一直線上における運動の法則について、平面内においても同様に扱えることを理解する。打ち上げ花火の「星」が放物線を描いていることを確かめるにはどうすればよいか考える。	
	5		力積と運動量	１２	空気中を落下する物体には抵抗力がはたらくこと、そのときの物体の運動のようすがどのように表されるか理解する。	
		3章　運動量 1節　力積と運動量（2h）	運動量の保存 床や壁との衝突 直線上の2物体の衝突 運動量とエネルギー		「物理基礎」で学習した質点と異なり、大きさと質量をもつ物体（剛体）があること、その運動のようすについて理解する。運動量という物理量について理解する。 直線上で物体が衝突するときにどの物理量がどのような関係になっているか、仮説を立てて検証方法を考える。運動量保存の法則について、さまざまな状況での演習を行い、理解を深める。	
	6	2節　運動量の保存（4h	等速円運動の表し方 円運動に必要な力 直線運動における慣性力	６	円運動を表す量として、角速度について表し方や速度との関係について理解する。物体が行う往復運動（振動）が身のまわりでどこに見られるか、	
			円運動における慣性力	４		
		3節　反発係数（3h）	単振動とは 単振動の表し方	１０	単純な形で表すことができる振動がどのような振動か考える。	
	7		ばね振り子 単振動を引き起こす力と	１０	単振動する物体の変位の時間変化が正弦曲線で表されることを理解する。	
2		4章　円運動 1節　円運動（2h）	振動の周期 単振り子		単振り子の周期がどのように表されるか論理的な導出をふまえて理解する。	
	9	2節　慣性力（1h）	単振動のエネルギー ケプラーの法則 万有引力の法則	１０	単振動する物体がもつエネルギーについて、その表し方とともに理解する。惑星の軌道や惑星の諸定数から、惑星の運動にどのような規則性があるのか考え、ケプラーの法則について理解する。	
		5章　単振動 1節　単振動（2h）	重力 人工衛星	１０	地球上の物体の質量を知ることと比較して、地球そのものの質量を知る方法について考える。	
	10	2節　さまざまな単振動	万有引力による位置エネルギー		万有引力の法則から重力がどのように表されるか理解する。	
	11	3節　単振動のエネルギー（1h）	気体の圧力 ボイル・シャルルの法則 理想気体の状態方程式	８	人工衛星の速さが、地表からの高さの違いによってどのように表されるか理解する。 中学校や物理基礎で学習した気体の圧力について、気体分子から見たときにどのように考えられるか理解する。	
		6章　万有引力 1節　惑星の運動（1h）	気体分子の運動と圧力 気体分子の運動と絶対温	１０	ボイルの法則とシャルルの法則をまとめて表すことができる（ボイル・シャルルの法則）ことについて理解する。	
	12	2節　万有引力（2h）	度気体分子の運動と気体の内部エネルギー		気体分子の運動によって、気体の内部エネルギーがどのように表されるか理解する。	
3	1	1編　さまざまな運動 7章　気体分子の運動 1節　気体の性質（2h）	熱力学第1法則 気体のする仕事 熱力学第1法則と気体の状態変化		単原子分子気体と多原子分子気体の違いについて理解する。 等温変化、断熱変化、定積変化、定圧変化での熱力学第1法則との関係について理解する。	
	2		気体のモル熱容量	７	定積モル熱容量と定圧モル熱容量の関係について理解する。	
	3	2節　気体分子の運動と状態方程式（3h）	気体の状態変化の熱力学第2法則と熱効率		物理基礎で学習した熱機関の熱効率をふまえて、熱力学第2法則について理解する。	
		3節　熱力学第1法則と気体の状態変化（4h）	熱力学第2法則と可逆変化、不可逆変化		可逆変化と不可逆変化についてエントロピーと関連付けて理解する。 熱力学第2法則がさまざまな表し方をできることを理解する。	
		4節　熱力学第2法則と熱機関（2h）	熱力学第2法則の別の表し方		代表的な熱機関のサイクルであるカルノーサイクルについて理解する。	
備考：3年物理選択		合計		105		ﾃｽﾄ

教　科　名	理科	科目名	生物	単位数	単位
対 象 学 年	２年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	生物704
科目の目標	生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，生物学の基本的な概念や原理･法則の理解を深め，科学的な自然観を養う。				
学習内容の概要	環境の変化に生物が反応していることについて観察，実験などを通して探究し，生物個体が外界の変化を感知し，それに反応する仕組みを理解する。 生物の進化の過程とその仕組みおよび生物の系統について，観察，実験などを通して探究し，進化についての考え方を身に付け，生物の多様性と系統を理解する。 生物の個体群と群集および生態系について観察，実験などを通して探究し，それらの構造や変化の仕組みを理解し，生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行い、事実を実証的、論理的に考え、分析的・総合的に考察して問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
評価方法	・テスト ・課題	・授業への取り組み 板書、発表　意思表示	・観察・実験への取り組み ・実験レポート
教科書、教材など	数研出版 『生物』生物基礎問題精講（旺文社）		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価
1	4	第1章　生物の進化	生物の多様性と共通性，原始地球と有機物の生成，有機物から生物へ，生物の出現とその発展，	7	生命の起源として，無機物から有機物が生じ，有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと，地球の環境の影響を受けて生物が進化してきたことを理解する。	提出課題・小テスト・感想文定期考査の成績を総合して評価
		1. 生命の起源と生物の進化		4		
		2. 遺伝子の変化と多様性	真核生物の出現と進化 遺伝子と形質，ゲノムの多様性	3	生物の形質の変化は，遺伝子の変化によって生じることを理解する。 突然変異によって，遺伝的な多様性が生じることを理解する。	
	5	3. 遺伝子の組み合わせの変化	減数分裂と受精，染色体と遺伝子，遺伝子の組み合わせの変化	2	減数分裂の過程では，染色体の乗換えによって遺伝子の組換えが起こることを理解する。有性生殖においては，親から子へと遺伝子が受け継がれる過程で，遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。	
		4. 進化のしくみ	進化と突然変異，集団としての進化，実際の生物集団と進化，種分化	2	遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度が変化することを理解する。隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。	
		5. 生物の系統と進化	生物の分類，生物の系統と系統樹，生物の系統と分類	3	DNA の塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から，生物の系統を推定できることを理解する。生物が，系統に基づいて3 つのドメインに分類されることを理解する。	
	6	6. 人類の系統と進化				
		第2章　細胞と分子	人類の祖先，人類の進化	2	人類が，霊長類のうちの類人猿から進化したことを理解する。人類の特徴として，直立二足歩行をすることが重要であることを理解する。	
		1. 生体物質と細胞	細胞を構成する物質，原核細胞と真核細胞の構造，真核細胞の構造と機能，生体膜の構造	2	細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。	
	7	2. タンパク質の構造と性質				
2		3. 化学反応にかかわるタンパク質	タンパク質とは，タンパク質の構造，タンパク質の立体構造と機能	3	細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。	
	9		酵素の基本的なはたらき，酵素のはたらきと反応条件，酵素反応の調節	3	酵素の基本的な性質と，酵素がはたらく反応条件ついて理解する。酵素反応を調節するしくみについて理解する。	
		4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質		2	生体膜を介した物質輸送と，それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。	
	10	第3章　代謝	膜輸送にかかわるタンパク質，情報伝達にかかわるタンパク質			
		1. 代謝とエネルギー生			生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり，反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。	
	11	2. 呼吸と発酵	物とエネルギー，生体内の化学反応	3	呼吸では，有機物が酸化されるのに伴う一連の酸化還元反応によってエネルギーが取り出され，ATP が合成されることを理解する。発酵では，酸素を用いずに有機物が分解され，ATP が合成されることを理解する。	
			呼吸とは，呼吸の過程，発酵，脂肪とタンパク質の分解	3		
		3. 光合成		3		
		第4章　遺伝情報の発現と発生	光合成とは，光合成のしくみ，細菌の光合成	3	光合成では，光エネルギーを用いてATP と電子の運搬体が合成され，これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。	
	12	1. DNAの構造と複製				
		DNAの構造，DNAの複製	遺伝情報とその発現，転写とスプライシング，翻訳，真核細胞と原核細胞のタンパク質合成の違い	5	DNA について，2 本のヌクレオチド鎖の方向性をふまえた詳しい構造を理解する。DNA が正確に複製される詳しいしくみを理解する。	
3	1			3		
		2. 遺伝情報の発現			DNA の遺伝情報を写し取って，RNA が合成されるしくみを理解する。転写されたRNA から，タンパク質が合成されるしくみを理解する。	
	2	3. 遺伝子の発現調節	遺伝子を導入する技術，遺伝情報，遺伝子発現を解析する技術，遺伝子を扱う技術と人間生活		遺伝子を扱うさまざまな技術について，その原理を理解する。遺伝子を扱うさまざまな技術が，私たちの生活に与える影響を理解する。	
		4. 発生と遺伝子発現				
	3	5. 遺伝子を扱う技術				
備考：			合計	120		

教　科　名	保健体育	科目名	体育（男子）	単位数	３単位
対 象 学 年	第２学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技術を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、事故の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	１学期…体つくり運動、バドミントンを行なう。 ２学期…バスケットボール、サッカー、バレーボールを行なう。 ３学期…ダンスを行なう。 各学期で体育理論を行なう。				

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	自己の能力と各種の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的なおこない方を身に付けている。	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付ける。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。
教科書、教材など				
授 業 形 態	特進・調理科（合同）　１組・２組（単独）			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
１	４	体育理論	体育理論	５	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を知る。	
	５		基礎体力の測定	８	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。	
		体つくり運動	姿勢・方向転換・集合の方法・整列・列の増減・行進	７	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、スムーズに、かつ安全に行動できるようになる。	
	６		体操・補強運動 体ほぐし運動	５	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたりして全身をリラックスして伸ばす。	
	７		体育理論	５		
		球技	バドミントン	１５	・サービスでは狙った場所に打てること。練習やゲームで相手や状況に応じて効果的に打ち分ける事が出来る。ラリーの中で味方の動きに合わせてコートの空いている場所をカバー出来る。	
２	８	期末考査				
			バスケットボール	１５	・個人技能でドリブル、パス、シュートの基本動作を身につける。 ・ゲームの攻防で状況に応じたプレーを選択して行っている。	
	９					
			サッカー	１５	・パス、ドリブル、シュートの復習をする。 ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによって攻防を展開する。	
	１０	期末考査				
	１１		バレーボール	１５	・基本技術の確認。ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーできるようになる。ブロック技術の習得。相手の攻撃の変化に応じて仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動出来る。	
	１２	球技				
３	１					
	２		ダンス （現代的なリズムのダンス）	１５	・リズムの特徴をとらえたステップや体幹部を中心とした弾む動きで全身で自由に踊ることができる ・選んだリズムや音楽の特徴をとらえて踊ることが出来る。	
	３	学年末考査				
備考：			合計	105		

教　科　名	保健体育	科目名	体育　（女子）	単位数	３単位
対 象 学 年	第２学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技術を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、事故の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	１学期…体つくり運動、バドミントンを行なう。 ２学期…バスケットボール、サッカー、バレーボールを行なう。 ３学期…ダンスを行なう。 各学期で体育理論を行なう。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	自己の能力と各種の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的なおこない方を身に付けている。	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付ける。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。
教科書、教材など				
授 業 形 態	特進・調理科（合同）　１組・２組（合同）			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
１	４	体育理論	体育理論	５	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を知る。	
	５		基礎体力の測定	８	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。	
		体つくり運動	姿勢・方向転換・集合の方法・整列・列の増減・行進	７	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、スムーズに、かつ安全に行動できるようになる。	
	６		体操・補強運動 体ほぐし運動	５	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたりして全身をリラックスして伸ばす。	
	７		体育理論	５		
		球技	バドミントン	１５	・サービスでは狙った場所に打てること。練習やゲームで相手や状況に応じて効果的に打ち分ける事が出来る。ラリーの中で味方の動きに合わせてコートの空いている場所をカバー出来る。	
２	８	期末考査				
	９		バスケットボール	１５	・個人技能でドリブル、パス、シュートの基本動作を身につける。 ・ゲームの攻防で状況に応じたプレーを選択して行っている。	
	１０	期末考査	サッカー	１５	・パス、ドリブル、シュートの復習をする。 ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによって攻防を展開する。	
	１１		バレーボール	１５	・基本技術の確認。ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーできるようになる。ブロック技術の習得。相手の攻撃の変化に応じて仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動出来る。	
	１２	球技				
３	１					
	２		ダンス（現代的なリズムのダンス）	１５	・リズムの特徴をとらえたステップや体幹部を中心とした弾む動きで全身で自由に踊ることができる	
	３	学年末考査			・選んだリズムや音楽の特徴をとらえて踊ることが出来る。	
備考：			合計	105		

教　科　名	保健体育	科目	保健	単位数	1単位
対 象 学 年	第　2　学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科 目 の 目 標	個人及び社会生活における健康・安全について、理解を深めるようにし生涯を通じて自らの健康を適切に管理し 改善していくための資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	・思春期と健康。・性への関心、欲求と性行動。・妊娠、出産と健康。・避妊法と人工妊娠中絶。 ・結婚生活と健康。・中高年期と健康。・医薬品とその活用。・医療サービスとその活用。 ・保健サービスとその活用。・さまざまな保健活動や対策。・大気汚染と健康。・水質汚濁、土壌汚染と健康。 ・働くことと健康。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え判断し、それらを表している。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。

教科書、教材など	・現代高等保健体育・現代高等保健体育ワーク
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	生涯を通じる健康	・ライフステージと健康	1	・ライフステージと健康の関連について説明できる。	授業中の態度、ノート、ワーク提出、期末試験等の点数で評価をする。
			・思春期と健康	1	・思春期における体の変化を女性と男性に分けて説明できる。思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例をあげることができる。	
	5		・性意識と性行動の選択	1	・性意識の男女差について例をあげて説明できる。	
			・妊娠・出産と健康	2	・妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。妊娠・出産期に活用できる母子健康サービスの例をあげることができる。	
	6		・避妊法と人工妊娠中絶	2	・家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。	
	7		・結婚生活と健康	2	・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。	
			・中高年期と健康	2	・加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる。	
	8					
2			・働くことと健康	1	・働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。	
	9		・労働災害と健康	2	・労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。	
			・健康的な職業生活	2	・職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。余暇を積極的にとることの意義について説明できる。	
	10					
		健康を支える環境づくり	・大気汚染と健康	1	・大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。	
	11		・水質汚濁、土壌汚染と健康	2	・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。	
	12		・環境と健康にかかわる対策	2	・環境汚染による環境被害を防ぐ方法について説明できる。産業廃棄物の処理について説明できる。	
			・ごみの処理と上下水道の整備	1	・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。	
	1					
	2		・食品の安全性	2		
3	3		・食品衛生にかかわる活動	2	・食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。	
			・保健サービスとその活用	1	・保健行政の役割について例をあげて説明できる。	
			・医療サービスとその活用	2	・わが国における医療保険のしくみについて説明できる。さまざまな医療機関の役割について説明できる。	
			・医療品の制度とその活用	2	・医療品の正しい使用法について説明できる。医療品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。	
			・さまざまな保健活動社的対策	1	・国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。	
			・健康に関する環境づくりと社会参加	3	・健康の保持増進のための環境づくりについて説明できる。環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。	
備考：			合計	35		

教　科　名	芸術	科目名	音楽Ⅱ	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年	履修形態	選択必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。				
学習内容の概要	Ａ.表現　　１歌唱　　２器楽　　３創作 Ｂ.鑑賞　　１鑑賞				

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	曲想と音楽の構造や文化的､歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに､創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
評価方法	観察・聴取 学習プリント	観察・聴取 実技試験	観察・聴取 実技試験 学習プリント
教科書、教材など	ＭＯＵＳＡ２（教育芸術社）		
授 業 形 態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5 6 7	正しい発声法を身につけよう（Ａ.表現･歌唱）	・発声練習 ・リトミック ・校歌	4	・姿勢や呼吸法に気を付けて、楽曲の特徴を感じ取り、イメージを持って歌う	
		イタリア歌曲を歌おう （Ａ.表現・歌唱）	・アヴェマリア ・カーロ　ミオ　ベン	8	イタリア語の語感を生かして､発音やフレーズの歌い方などを工夫しながら､楽曲にふさわしい表現を追求して独唱する演奏者による表現の特徴とその違いを理解する。	観察 実技試験
		オーケストラを知ろう （Ｂ.鑑賞）		4	・オーケストラについての知識を深める。	学習プリント
		ボディーパーカッションに挑戦しよう （Ａ.表現・器楽）	・チェリー（副教材）	4	・音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫してアンサンブルの喜びを味わう。	学習プリント
		表現を工夫してギターを演奏しよう （Ａ.表現・歌唱）	・サザエさん	8	・ギターの音色や基本的な奏法の特徴を生かし、表現を工夫しながら演奏する。歌い弾きができるようにする。	観察・聴取、実技試験
	8	鑑賞しよう	モーツァルトについて	4	・作曲家の生涯をたどり、作品の特徴を聴きとる。	学習プリント
	9 10 11 12	表現を工夫して合唱やアンサンブルをしよう （Ａ.表現・歌唱）		8	・アンサンブルにおける自分の役割にふさわしい表現方法を探求する。	観察・聴取 学習プリント
		世界の諸民族の音楽に親しもう（Ｂ.鑑賞）	・鑑賞教材「世界の諸民族の音楽」	4	・世界の諸民族の音楽における声や楽器の音色や表現の特徴を捉え､多様な表現による音楽美を感じ取って鑑賞したり表現したりする。	観察・聴取、実技試験
	1 2 3	三味線に親しもう	・さくら ・	6	・三味線の音色や基本的な奏法の特徴を生かし、表現を工夫しながら演奏する	学習プリント
		鑑賞しよう	・ベートーベンについて	4	・作曲家の生涯をたどりながら、作品の特徴を聴きとる。	学習プリント
		創作に挑戦しよう （Ａ.表現・創作）	・五音音階の種類と楽曲の特徴 ・旋律創作の手順と方法	8	・音階を選んで旋律をつくり、それにもう一つの旋律をつくって重ねる。	観察・聴取
		混声合唱の響きを味わおう （Ａ.表現・歌唱）	・ゆめみたものは ・ぼくはぼく	8	・各パートの役割や音の重なり方などを理解して、楽曲にふさわしい表現や響きを追求する。	
備考：			合計	70		

教　科　名	芸術	科目名	美術Ⅱ	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年	履修形態	選択必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。				
学習内容の概要	（１）絵画・彫刻　（２）デザイン　（３）映像メディア表現　（４）鑑賞				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知識・技能（技術）【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に取り組む態度【態】
	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
評価方法	観察・聴取 学習プリント	観察・聴取 実技試験	観察・聴取 実技試験 学習プリント
教科書、教材など	高校生の美術 ２（日本文教出版）		
授 業 形 態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
１	４	デザイン	・イラストレーション（自己紹介カード）	６	・レタリングの基礎、イラストレーションを通しての自己表現を工夫する。	
	５					
	６	絵画、鑑賞	・身近な物を描く			
	７		・鑑賞	４		観察 実技試験
	８	デザイン	・色彩理論（色の分類やしくみ） ・色彩構成（色と形の響き合い）	１４	・色や形の基礎を学び構成力や色感を身につける ・色の分類、配色、美的秩序について学ぶ	学習プリント 学習プリント
	９	立体構成	・紙による立体構造（地域のよさをパッケージの形に）	１４	・目的と機能、役割を考えてデザインを工夫する。 ・素材の特性を活かした機能的で創造な表現を工夫する。	観察・聴取、実技試験 学習プリント
	10					
	11	映像メディア表現	・プレゼンシート制作	８	・視覚伝達効果のある表現、映像メディア機材を用いた表現方法を理解する。	観察・聴取 学習プリント
	12					
	1		・版画制作（ドライポイントで表現）	１４	・版画表現の多様性を、版種を学ぶ。 ・版画表現の独特な技法や面白さを味わう。	観察・聴取、実技試験 学習プリント
	２	絵画				
	３	多様な表現（平面）	・様々な表現方法（自分の心の空、心の風景）	１０	・素材や材料、用具の特性を活かした表現方法をくふうして表現する。	学習プリント 観察・聴取
備考：			合計	70		

教　科　名	芸術	科目名	書道Ⅱ	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年	履修形態	選択必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。				
学習内容の概要	Ａ.表現　　１漢字仮名混じり書　　２漢字の書　　３仮名の書　　４創作　　５篆刻 Ｂ.鑑賞　　１書の美しさと表現効果　　２中国および日本の文化				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	・書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	・書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	・主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
評価方法	・表現の意図、構想、表現の工夫の取り組みの記録 （ワークシート等）	・表現を工夫して表した成果 （作品）	・作品制作への取り組み状況 （活動の様子） ・学習活動への参加状況 （出席状況・学習態度・意見発表等）

教科書、教材など	東京書籍「書道Ⅱ」
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5	書写で学んできたこと		4	・中学までの学習を振り返り、書写と書道の共通性と相違を理解する。	作品
	6	漢字の書の学習	楷書の臨書と鑑賞	12	・漢字の書の変遷について学ぶ。	
	7			8	・漢字の古典の鑑賞により、多様な表現を理解し、鑑賞力を深める。	
			行書の臨書と鑑賞	8	・各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞する。	
			草書の臨書と鑑賞	8	・草書に親しみ、古典の臨書学習により、草書の特徴を踏まえた用筆法、運筆法を学ぶ。	
			漢字仮名交じりの書	8	・自己の意図や狙いを達成するために、漢字や仮名の古典を活かした表現を工夫する。 ・自らの思いや感動を表現する語句を選び創作する。 ・用具、用材の種類や扱い方によって、表現が変化することを理解する。	
2	8 9					
	10 11	篆刻	篆刻	6	・姓名印を作成し、創作作品に押印する。	学習プリント
	12	生活に広げる	実用書	4	・年賀状や手紙文の書き方を学ぶ。	年賀状
3	1 2 3		隷書の臨書と鑑賞	6	・隷書に親しみ、古典の臨書学習により、隷書の特徴を踏まえた用筆法、運筆法を学ぶ。	作品
			篆書の臨書と鑑賞	6	・篆書に親しみ、古典の臨書学習により、篆書の特徴を踏まえた用筆法、運筆法を学ぶ。	
		仮名の書の学習	仮名の美の展開	8	・仮名の書の変遷について学び、日本の伝統美を理解し表現する。	
備考：			合計	70		

教　科　名	外国語	科目名	英語コミュニケーションⅡ	単位数	３　単位
対 象 学 年	２年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	CⅡ702
科目の目標	日常的・社会的な話題について，多くの支援を活用すれば， 必要な情報を聞き取り，話し手の意図を把握したり，概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。				
学習内容の概要	必要な情報を読み取り，書き手の意図を把握したり，概要や要点を目的に応じて捉えたりする。 基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり，論理性に注意して話して伝え合ったりする。 基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して話して伝える。 基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝える。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表	外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
評価方法	・小テスト ・定期考査（中間考査・期末考査）	・小テスト（音読テスト、writingテストなど） ・定期考査（中間考査、期末考査）	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況
教科書、教材など	「Power On English Communication Ⅱ」(C Ⅱ702)，「ユメタン①」(アルク) 「Power On English Communication Ⅱ WORKBOOK」(東京書籍)「Next Stage」(桐原書店)		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	**Lesson 1** Play me, I'm Yours	ユメタン音読、単語練習 ・小テスト ・デジタル教科書を使用して本文内容理解 ・ワークブック ・文法事項の確認、練習 ・本文音読 ・Fact Book演習		・助動詞＋動詞の原形，受け身，S＋V［be 動詞以外］＋C を用いた文の形・意味・用法を理解。 ・日本や海外でのストリートピアノと人々・社会とのかかわりについて，ストリートピアノがどのような経緯で設置されたかについて伝えている。 ・S＋V＋O＋C［形容詞］，S＋V［使役］＋O＋C［原形不定詞］，S＋V［知覚］＋O＋C［現在分詞，原形不定詞］を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・現在完了形，過去完了形，仮定法過去の if 節を用いた文の形・意味・用法を理解している。	
	5	**Lesson 2** Ethical Fashion				
	6	**Lesson 3** One for All, All for One				
	7	**Lesson 4** Vending Machines				
2	9	**Lesson 5** Design for Connecting Society: Braille Neue			・関係代名詞（主格），関係代名詞の非制限用法，関係代名詞（目的格）を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・助動詞＋受け身，S＋V＋C［分詞］，S＋V＋O［if 節］，It seems [appears] ＋that 節を用いた文の形・意味・用法を理解している ・It＋is［was］＋said＋that 節，形式目的語 it と that 節，形式目的語 it と to 不定詞，助動詞＋have＋過去分詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・関係代名詞（所有格），同格を表す接続詞 that，前置詞＋関係代名詞，関係副詞 where の非制限用法を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・強調構文，強調の助動詞 do，直前の文を先行詞とする関係代名詞 which，to＋have＋過去分詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	
	10	**Lesson 6** New Banknotes				
	11	**Lesson 7** Some Secrets about Colors				
3	12 1 2	**Lesson 8** Powdered *Natto* Solves a Global Water Problem				
	3					
備考：		合計				

教　科　名	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	２単位
対 象 学 年	２総合・調理	履修形	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第１款の（１）及び（２）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その課程を通して、第１款の（３）に示す資質・能力を育成する。				
学習内容の概要	〔知識及び技能〕（１）英語の特徴やきまりに関する事項　ア音声　イ句読法　ウ語、連語及び慣用表現　エ文構造及び文法事項　〔思考力、判断力、表現力等〕（２）情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項（３）言語活動及び言語の働きに関する事項①言語活動に関する事項②言語の働きに関する事項				
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知識・技能 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる 実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適 切に活用できる技能を身に付けるようにする。	思考力・判断・表現 コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題 や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切 に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	主体的に学習に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケー ションを図ろうとする態度を養う。	
評価方法	・小テスト ・定期考査（中間考査・期末考査）	・小テスト（音読テスト、writingテストなど） ・定期考査（中間考査、期末考査）	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況		
教科書、教材など	VISTA English Communication Ⅱ（三省堂）、VISTA English Communication Ⅱwork book（三省堂） ユメタン⑴アルク				
授 業 形 態	一斉、ペアワーク、グループワーク				

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
	4	1年生の復習	ユメタン音読、単語練習 ・本文内容理解 ・ワークシート ・文法事項の確認、練習 ・本文音読	7	・基本文型の確認（sv, svc, svo, svoo, svoc） ・肯定文、否定文、疑問文、命令文の確認	提出課題・小テスト・授業態度・定期考査の成績を総合して評価
	5	Lesson1　World Dance Performances ・READ ON		7	・文化の多様性を感じ取る。	
	6	中間考査		2	・動詞＋目的語＋to 不定詞、疑問詞＋to 不定詞	
		Lesson2 A piece of cake ・READ ON		7	・英語、日本語、それぞれの慣用表現の面白さを感じ取り、言語に対する興味を高める。	
	7	期末考査		2	・疑問詞で始まる節、if で始まる節	
		Lesson3 Quokka		7	・生き物と自然環境について考える。	
	8 9				・使役動詞、知覚動詞	
		・READ ON ・What's the Purpose of Your Visit?		2 2	・入国手続きで入国の目的、滞在場所、期間などの質問に答えられるようにする。	
	１０	Lesson4 Designing Stamps		7	・玉木氏の職業への意識と切手デザインを通した文化の紹介につい考える。	
		中間考査 Lesson4				
	１１	Designing Stamps		7	・形式主語の it、形式目的語の it	
		・READ ON Lesson5 Mont-Saint-Michel		2 7	・モンサンミシェルへ行く手段を巡る歴史を通じて、景観を守るための人々の取り組みを考える。	
	１２	・READ ON				
		期末考査		2	・現在完了進行形、過去完了形、過去完了進行形	
	1			7	・スマート農業を通じて未来の農業について考える。	
		Lesson 6 Smart Agriculture		2	・現在完了形の受け身、助動詞＋受け身	
	2	・READ ON 学年末考査				
	3					
備考：			合計	70		

教　科　名	外国語	科目名	論理表現Ⅱ	単位数	２　単位
対 象 学 年	２年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	論Ⅱ709
科目の目標	「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して，コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに，論理の構成や展開を考察することで，情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。				
学習内容の概要	コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を 踏まえ，話したり書いたりする言語活動を 中心に，情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図るように指導する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○外国語の学習を通じて，言語の働きや役割などを理解し，外国語の音声，語彙・表現，文法の知識を身に付けている。 ○外国語の音声，語彙・表現，文法を，４技能（聞くこと，読むこと，話すこと，書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。	○場面・目的・状況等に応じて，幅広い話題について，情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。 ○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して，場面・目的・状況等に応じて，幅広い話題について外国語を話したり書いたりして，情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。	○外国語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解している。 ○外国語の学習を通じて，言語やその背景にある文化を尊重し，自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ○他者を尊重し，聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら，外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して，自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査（中間考査・期末考査）	・小テスト（音読テスト、writingテストなど） ・定期考査（中間考査、期末考査）	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況
教科書、教材など	Vision Quest English Logic and expression Hope（啓林館） Next Stage 4th（桐原書店）		
業　形　態	一斉授業/ペアワーク、グループワーク		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	Lesson1 What is your future goal?	・Next Stage 小テスト ・ワークブック ・文法事項の確認、練習 ・本文音読 ・Fact Book演習	4	・適切な・主語を用いる。 ・文と文をつなぐ。将来の夢や実現するための努力について、文と文のつながりを意識して文章を書くことができる	
	5	Lesson2 What school events do you have?		4	・適切な動詞を用いる。 ・パラグラフの基本構成（列挙・対照）。留学生のために催したい学校行事について、自分の考えや詳細を順序立てて説明することができる。	
	6	Lesson3 Who is the best athlete?		4	・時を現す ・義務、必要、推量を現す	
	7	Lesson4 Is school area safe?		4	・情報を加える（1）Paragraph Writing 原因、理由 ソーシャルメディアの利点と欠点について話し合い、その意見を比較対比するパラグラフを書く。	
2	9	Lesson5 How does overusing energy affect us?			・深刻な環境問題について、理由や因果関係を示すパラグラフをかく。	
	10	Lesson6		4	・情報を加える（2）Citing Information 主張や理由の根拠。	
	11	What are some differences?		4	・情報を加える（3）Summarizing①リーディングの要約 ・海外旅行者の傾向について、自分の主張や理由の根拠を示す引用を用いて、パラグラフをかく。	
	12	Lesson7 Do all Japanese people need to speak English?			・公用語について書かれた記事の構成や要点を理解し要約をパラグラフにまとめる。	
3	1 2 3					
備考：		合計				

教　科　名	家庭科	科	家庭基礎	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年	履修	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てる。				
学習内容の概要	（１）人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。 （２）家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。				
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度）・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度）・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度）・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート）		
教科書、教材など	東京書籍　「家庭基礎」				
授 業 形 態	一斉授業				

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）
1	4	家庭科の学び方	家庭科の学び方	1	・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。
		生涯を見通す	人生を展望する	7	・各ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞの特徴と課題を理解する。
	5		目標を持って生きる		
		人生をつくる	人生をつくる 家族・家庭を見つめる これからの家庭生活と社会		・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように，さまざまな生き方について理解する。
	6	子どもと共に育つ	命を育む 子どもの育つ力を知る 子どもと関わる これからの保育環境	8	・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために，子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために，子どもの生活習慣や衣食住について理解する。
	7	超高齢社会を共に生きる	超高齢・大衆長寿社会の到来 高齢者の心身の特徴 これからの超高齢社会	10	・超高齢社会の背景を理解し、加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。
		期末考査	私たちの生活と福祉		
	8				
2		共に生き，共に支える	社会保障の考え方	4	・社会保障制度の理念と内容を学ぶ。
	9	衣生活をつくる	被服の役割を考える 被服を入手する 被服を管理する	10	・被服の機能を理解し、健康で快適な着装について考える。 ・購入、再利用、破棄などを考慮に入れた衣服の必要性を理解する。
	10	住生活をつくる	住生活の変遷と住居の機能 安全で快適な住生活の計画	6	・生涯を見通した住生活について考え，将来に向けて自立するために，毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・室内外の環境に着目し，安全性・快適性等を考慮する必要性を理解する。
		経済生活を営む		6	
	11		情報の収集・比較と意思決定		・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。
		期末考査	購入・支払いのルールと方法 消費者の権利と責任		・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう，契約の重要性について理解する。
	12		障害の経済生活を見直す これからの経済生活		・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため，家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。
	1			6	
		これからの生活を創造する	生活をデザインする		・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。
3				12	・人生の目標を達成し，自分らしい生活が実現できるよう，各ライフステージの課題や生活資源，リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。
	2	食生活をつくる	食生活の課題について考える 食事と栄養・食品		・自分自身の食生活を振り返り、問題点を考える。
		学年末考査	食生活の安全と衛生		・食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。
	3		調理の基礎 これからの食生活		・基本的な調理技術を学び，日常食を作れるようになる ・生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。
備考：			合計	70	

教　科　名	商業	科	簿記	単位数	単位
対 象 学 年	２年　総合	履修形	必修	科目ｺｰﾄﾞ	1
科目の目標	簿記は英語・コンピュータに次ぐ第３の世界共通語であるといわれています。 コンピュータ化が進み帳簿などもコンピュータが作成してくれるようになり、簿記の知識は必要なくなるという意見もありますが、簿記などを判断する仕事は人間でなければできません。 その第３の世界共通語である簿記の基本を学び３年生の終了時までには検定試験に挑戦できるよう対応していきたい。				
学習内容の概要	商業の基礎（商業教育のスタートノート） 検定試験４級範囲（第１編簿記の基礎　～第２編取引の記帳その１：商品売買の取引　まで）				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	簿記は問題を読んで理解する力、帳簿の計算する力、勘定科目の覚える力を必要。	簿記は問題を読んで理解する力、帳簿の計算する力、勘定科目の覚える力を必要するため道具（計算機他）の準備、帳簿の書き方など理解する	単元ごとの確認テスト、定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業をはじめとした教科全体の取り組む姿
評価方法	定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業の取り組む姿勢により評価を行う。	定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業の取り組む姿勢により評価を行う。	単定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業の取り組む姿勢により評価を行う

教科書、教材など	新簿記（実教出版）
業　形　態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1学期	4 5	簿記の基本	企業の簿記 資産・負債・資本　貸借対照表	4	簿記の種類、訂正の仕方など 勘定科目の分類、貸借対照表の作成	
	6		収益・費用　損益計算書	6	勘定科目の分類、損益計算書の作成	
2学期	7 8 9	簿記の基本	取引と勘定	4	簿記上の取引の確認 取引要素の結合関係 勘定口座への記入法	
	10			6	仕訳と転記	
	11			6	仕訳帳の記入法 総勘定元帳の記入法	
3学期	12 1 2 3			9	合計試算表、残高試算表を作成 ６けた清算表をたてる。 決算の意味・手続き ４級の模擬試験を実施	
備考：			合計	35		

教　科　名	商業	科	ビジネス	単位数	1単位
対 象 学 年	2年　総合	履修形	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	ビジネスは商業科の基礎教科である。 ビジネスは、「お金を稼ぐこと」をイメージするかもしれません。ただし、適切に「お金を稼ぐこと」は自分の欲求を。満たすだけでなく、同時に社会を豊かにしてくれます。将来を考える機会として学ばせる。。				
学習内容の概要	ビジネス基礎ノート				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	商業を学ぶ目的やビジネスで必要な心構え私たちの生活とビジネスの結びつきを学ぶことが必要。	ビジネスを円滑に行うために必要なコミュニケーション・身だしなみや挨拶などを理解する	単元ごとの確認テスト、定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業をはじめとした教科全体の取り組む姿
評価方法	定期考査､問題集を使用した自学の状況、授業の取り組む姿勢により評価を行う。	定期考査､問題集を使用した自学の状況、授業の取り組む姿勢により評価を行う。	単定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業の取り組む姿勢により評価を行う

教科書、教材など	ビジネス基礎ノート
業　形　態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1学期	4 5 6	いざ、ビジネスの世界へ	私たちの生活とビジネス	4	ビジネスとは何か 生活との結びつきについて	試験等
1学期 2学期	7 8 9 10	さまざまなビジネス	社会を支えるビジネス	6 4	社会を支えている産業にはどのようなものがあるか さまざまなビジネスについて	
2学期	11 12 1		ビジネスの種類	6	ビジネスにはどのようなものあるか	
2学期 3学期	1 2 3		小売業 物流業	6	小売業の種類・内容について 物流業の種類・内容について	
3学期			卸売業 金融業	9	卸売業の種類・内容について 金融業の種類･内容･役割について	
備考：			合計	35		

教　科　名	数学	科目名	数学B	単位数	２単位
対 象 学 年	２年選択	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	数列，統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるよう				
学習内容の概要	第1章　数列　　第2章　統計的な推測 第3章　数学と社会生活				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する
教科書、教材など	教科書　最新数学B（数研出版）		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	第1章　数列	第1節　等差数列と等比数列	10	数列やその一般項の表し方について理解する。また，基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し，それらの和を求められるようにする。また，これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5					
		１学期中間考査				
	6					
			第2節　いろいろな数列	9	和の記号Σの表し方や性質を理解し，活用できるようにする。また，いろいろな数列について，その一般項や和を求めたり，和から一般項を求めたりできるようにする。	
	7					
		１学期期末考査	第3節　漸化式と数学的帰納法	14	数列の帰納的な定義について理解し，漸化式から一般項が求められるようにするとともに，複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また，数学的帰納法の仕組みを理解し，様々な命題の証明に活用できるようにする。	
	8					
	9	第2章　統計的な推測	第1節　確率分布	10	確率変数と確率分布について理解し，期待値や分散，標準偏差などを求めることを通じて，分布の特徴を把握できるようにする。また，連続型確率変数についても理解し，正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	
	10	２学期中間考査				
	11		第2節　統計的な推測	6		
2						
	12	２学期期末考査				
	1	第3章　数学と社会生活		7	社会生活などにおける問題を，数学を活用して解決する意義について理解するとともに，日常の事象や社会の事象などを数学化し，数理的に問題を解決する方法を知り，積極的に数学を活用する姿勢を培う。	
	2	学年末考査				
		問題演習	問題演習	14		
	3					
3						
備考：		合計	70			

教　科　名	外国語	科目名	論理表現Ⅰ	単位数	２　単位
対 象 学 年	２年選択	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	論Ⅰ709
科目の目標	「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して，コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに，論理の構成や展開を考察することで，情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。				
学習内容の概要	コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を 踏まえ，話したり書いたりする言語活動を 中心に，情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図るように指導する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○外国語の学習を通じて，言語の働きや役割などを理解し，外国語の音声，語彙・表現，文法の知識を身に付けている。 ○外国語の音声，語彙・表現，文法を，４技能（聞くこと，読むこと，話すこと，書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。	○場面・目的・状況等に応じて，幅広い話題について，情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。 ○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して，場面・目的・状況等に応じて，幅広い話題について外国語を話したり書いたりして，情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。	○外国語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解している。 ○外国語の学習を通じて，言語やその背景にある文化を尊重し，自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ○他者を尊重し，聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら，外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して，自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査（中間考査・期末考査）	・小テスト（音読テスト、writingテストなど）・定期考査（中間考査、期末考査）	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況
教科書、教材など	Vision Quest English Logic and Expression Ⅰ Standard(啓林館)　Next　Stage　4th（桐原書店）		
業　形　態	一斉授業/ペアワーク、グループワーク		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	Lesson1 I want to introduce my new friend.	・Next Stage 小テスト ・ワークブック ・文法事項の確認、練習 ・本文音読 ・Fact Book演習	4	・ 紹介：初対面で行われる自然な会話や学校の習慣を紹介する表現を学ぶ。 ・文法 ：さまざまな疑問文や命令文，感嘆文を適切に作り，それに応答することができる。また，単文，重文，複文の構成を理解し，まとまりのある文で表現することができる。	
	5	Lesson2 Do you want to join our show?		4	・ 学校生活:学校の文化祭に参加する留学生との会話を通して，学校生活で行われる生徒同士のやり取りの表現を学ぶ。 ・5つの文型と There is の構文を理解し，文を組み立てることができる。また，注意すべき自動詞と他動詞の使い分けができる。	
	6	Lesson3 I'm planning a day trip this weekend.		4	・旅行の計画や予定を尋ねたり伝えたりする表現を学ぶ。	
	7				・基本時制の構造と概念を理解し，伝えたいことを適切な時制を用いて，書いたり話したりすることができる。	
2	9	Lesson4 Have you ever tried it before?		4	・趣味や関心のあることについて，その経験を尋ねたり，伝え合ったりする表現を学ぶ。	
	10				・現在・過去・未来完了形の概念を理解し，それぞれの用法を区別することができる。また，共に使える語句を使って，文を作ったり，表現したりすることができる。	
	11	Lesson5 What do you want to do after school?		4	・将来や進路について，自分の意見や考えを伝えたり，相手に尋ねたりする表現を学ぶ。	
	12	Lesson6			・助動詞のそれぞれの意味と用法を理解し，適切に使い分けて表現することができる。	
3	1	Did you hear about the new shop?			・日常生活で発話される生徒同士の自然な会話の流れを学び，自分の感情や物事を詳細に表現することができる。	
	2	Lesson7			・受動態を用いた様々な文の構造や意味を理解し，必要に応じて使い分け，適切に伝えることができる。	
	3	I'm happy to have you with us.				
備考：		合計				

教　科　名	商業	科	情報処理	単位数	2単位
対 象 学 年	2年選択	履修形	選択	科目ｺｰﾄﾞ	1
科目の目標	「ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる」という目標を達成するための基礎となる怠惰や知識を見につける。 情報社会の一員として適切に行動するために必要なルールやモラル、マナーを学ぶ。コンピュータなどの情報機器を用いて情報を活用するための基本的な知識を身につける				
学習内容の概要	情報処理検定 3 級問題集				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	パソコン等の操作・情報処理のルール・マナーが見についているか。。	情報表現・情報モラル・情報処理について適切に判断できるか、身についているか。	単元ごとの確認テスト、定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業をはじめとした教科全体の取り組む姿
評価方法	定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業の取り組む姿勢により評価を行う。	定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業の取り組む姿勢により評価を行う。	単定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業の取り組む姿勢により評価を行う

教科書、教材など	ビジネス基礎ノート
業　形　態	一斉授業

年 間 授 業 計 画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1学期	4 5 6	情報の活用と情報モラル	情報モラル	8	情報モラルの基本を身につける	試験等
1学期 2学期	7 8 9		ハードウェアとソフトウェア	4 8 8	情報機器の名前・役割について学び機器を使用していく	
2学期	10 11 12	ビジネス情報の処理と分析	基本的な表の完成	4	Excel の導入	
2学期 3学期	12 1		関数を利用した表の完成	8 8	Excel での表の作成	
3学期	2 3		グラフの作成 情報の整列・検索・抽出 ビジネスと統計	8 6 8	Excel でのグラフ作成 表・グラフ・並べ変え等作成	
備考：			合計	70		

教　科　名	福祉	科目名	基礎介護	単位数	２単位
対 象 学 年	第　２　学年	履修形態	選択	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	福祉の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通し て，人間の尊厳を支え自立支援を行うために必要な基礎的な資質・能力を次のとお り育成することを目指す。				
学習内容の概要	介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方を習得させる。 介護の現代的意義や役割について考えさせ、介護をとりまく状況や介護福祉サービスの確立やさまざまな社会的対応について理解させる。 介護を必要とする人に対して自立支援の観点にもとづき、自己実現が達成されるよう適切な介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。				
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解していると共に、関連する介護技術を身につけている。		介護に関する諸問題を発見し、介護者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。		よりよい介護を目指して自ら学び、適切な介護の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
評価方法	定期考査・ノート・課題（プリント・ワークシート・感想文）・実技テスト		授業態度・ノート・課題（プリント・ワークシート・感想文）・発表		授業態度・ノート・課題（プリント・ワークシート・感想文）
教科書、教材など	実教出版　「介護福祉基礎」				
授 業 形 態	一斉授業				

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容(活動・実験・実習等)	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）
1	4	第1編 介護の意義と役割	第1章尊厳を支える介護 第2章自立に向けた支援	4 1	介護の意義と人権尊重の考え方・利用者主体の考え方を理解する。 自立のために介護従事者が果たす役割について理解する。 ICFモデルやリハビリテーションの考え方について理解する。
	5	第2編 介護福祉の担い手	第1章介護従事者をとりまく状況 第2章介護従事者の役割と介護福祉士	4	介護の歴史と介護をとりまく状況について理解する。 社会福祉士及び介護福祉士法と介護福祉士の資格取得方法について理解する。
		中間考査			
	6				介護の役割、介護福祉士の専門性と、介護がチームで行われることを理解する。
				5	在宅における介護従事者の役割と地域で暮らし続けるために必要な視点を理解する。
			第3章介護従事者の倫理		施設の機能と種類、施設における介護従事者の役割を理解する。 介護従事者に必要な倫理・基本姿勢について理解する。
			第4章介護実践における連携		介護従事者・各専門職・介護支援専門員との連携について理解する。
	7	期末考査			生活環境を整えることの必要性について理解する。 介護を必要とする人の背景について理解する。
			第1章介護を必要とする人と生活環境	4	高齢者の特徴や加齢による心身の変化について理解する。
	8				障害の概念の変遷と、障害者への具体的な支援について理解する。
2			第2章高齢者の生活と支援	2	肢体不自由者・視覚障害者・聴覚・言語障害者・内部障害者・知的障害者・発達障害者・精神障害者の生活上の困難と支援について理解する。
	9		第3章障害者の生活と支援		
		第3編 介護を必要とする人の理解と支援		5	高齢者が示す状態や症状の観察ポイントを理解する。 高齢者および多職種とのコミュニケーション方法を理解する。 ボディメカニクスについて理解する。 居住環境の整備が自立支援につながることを理解する。
	10	中間考査	第4章介護を必要とする人の生活を支える支援	8	移動は日常生活行為の基本であることと利用者の状態に合わせた移動支援について理解する。 食事に必要な支援について理解する
				13	自立に向けた排せつ支援について理解する。
	11	期末考査			身じたくの生理的・心理的影響について理解する。 入浴の支援方法と作用について理解する。
				6	睡眠と覚醒の関係を理解する。
	12		第5章介護福祉サービスの概要		介護保険制度の目的とサービス利用の流れについて理解する。 居宅介護サービスの必要性と種類を理解する。
3					地域密着型サービスの役割と種類を理解する。 施設サービスの利用者の状況と施設サービスの役割について理解する。
				3	老人福祉法、介護保険法にもとづく施設サービスの種類とその内容について理解する。
			第1章介護における安全と事故対策	4	障害者総合支援法におけるサービスの概要とサービスの利用手続きについて理解する。
	1	第4編 介護における安全確保と危機管理		4	介護におけるリスクマネジメントについて理解する。
			第2章介護従事者の健康管理	2	事故を予防するための取り組みについて理解する。
	2		第3章感染対策		介護現場で多い転倒・転落事故について理解する。
	3				リスクマネジメントと利用者の尊厳について理解する 健康管理の必要性について理解する。
		学年末考査			介護従事者の心理面の健康管理について理解する。 感染症の基本的な知識と感染対策について理解する。

教　科　名	福祉	科目名	福祉基礎	単位数	２単位
対 象 学 年	第　２　学年		履 必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	福祉の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通し て，社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
学習内容の概要	社会福祉の理念と意義を理解し、社会構造やライフスタイルの変化をふまえた新しい福祉社会を実践する態度を育成する。 社会福祉の歴史を理解し、現代社会における社会福祉の意義や役割を考える力を身に付ける。 対人援助の技術や多様な社会的支援について理解し、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決する力を身に付ける。				
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、支援者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。		健全で持続的な社会をめざして自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	定期考査・ノート・課題（プリント・ワークシート・感想文）		定期考査・授業態度・ノート・課題（プリント・ワークシート・感想文）・発表		授業態度・ノート・課題（プリント・ワークシート・感想文）
教科書、教材など	実教出版　「社会福祉基礎」				
授 業 形 態	一斉授業				

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）
1	4	第1編 社会福祉の理念と意義	第1章生活と福祉	7	日本の人口の推移とそれに伴う社会福祉の課題について理解する。 産業構造の変化や地域社会の変化・家族の多様化と働き方の変化について理解する。
	5	中間考査			疾病構造の変化が医療に及ぼす影響と健康増進の取り組みについて理解する。
			第2章社会福祉の理念		人の一生に社会福祉が様々な形で関わっていることを理解する。
				4	地域社会と社会福祉との関わりについて理解する。
	6		第3章人間の尊厳と新たな福祉社会の創造		基本的価値としての人間の尊厳について理解しよう。
				8	自立生活支援の考え方と今後の展望について理解しよう。 新たな福祉社会と求められる担い手や活動について理解する。
		第2編 社会福祉の歴史と次代の展望	第1章諸外国における社会福祉		社会福祉の歴史の流れを理解する。 イギリスの福祉国家の誕生の流れ・危機と改革の歴史を理解する。 アメリカの社会福祉の歴史と特徴を理解する。
	7				北欧の社会福祉の歴史と理念について理解する。
		期末考査			アジア諸国の社会福祉の歴史と課題について理解する。
			第2章日本における社会福祉		日本の慈善事業・社会事業が生まれた社会背景について理解する。
2	8			8	第二次世界大戦後の社会保障の基礎がつくられた経緯を理解する。 国民皆年金・皆保険の成立、福祉六法体制の確立の背景を理解する。
		中間考査			障害者施策の拡充の歩みを理解する。
	9				近年の福祉の大きな変化と今後の福祉社会のあり方について理解する。
			第1章社会保障制度の意義と役割		社会保障制度の基本的な考え方・内容について理解する。
			第2章子ども家庭福祉		戦後にできた児童福祉法から、現代社会の子育て支援までの推移を理解する。
		第3編			
	10	生活を支える社会福祉・社会保障制度			児童相談所と市町村の役割と機能、地域社会の関わりについて理解する。
				4	社会的擁護のしくみや児童虐待について、その傾向とともに理解する。
	11			10	障害のある子どものための法律と福祉サービスについて理解する
			第3章障害者福祉		子どもの権利条約の内容と社会への影響について理解する。 障害者基本法における障害者の定義について理解する。
	12	期末考査			日本の障害者数と障害者の生活のしづらさ・障害者福祉の理念について理解する。
			第4章高齢者福祉と介護保険制度	6	
			第5章生活支援のための公的扶助		日本の高齢化の実態と課題について理解する。
3	1				生活保護制度の基本的な考え方・種類と保護費の算定基準について理解する。
		第4編 人間関係とコミュニケーション	第6章国民の生活を支える社会保険制度	6	日本の社会保険制度の全体像とその概要を理解する。
			第1章コミュニケーションの基礎		対人支援におけるコミュニケーションの意義や役割について理解する。
	2	第5編 地域福祉の進展と多様な社会的支援制度	第2章支援における人間関係の形成		コミュニケーションの手段や方法とその多様化について理解する。 医療提供施設の概要と医療に関わる専門職について理解する。 特別支援教育の歴史や制度について理解する。
	3		第1章多様な社会的支援制度	6	社会的孤立の問題に対し、国や地域社会、社会福祉専門職に求められる役割について理解する。
		学年末考査			
			第2章地域福祉の進展と地域の将来		これからの社会福祉の実現に自身がどのように関わるかについて理解する。
				12	
備考：			合計	70	

教　科　名	保健体育	科目名	専攻実技	単位数	３単位
対 象 学 年	第２学年	履修形態	選択必須	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	運動の合理的，計画的な実践を通して，専門的な知識・理解を深めるとともに技能を高め，運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし，自己の状況に応じて体力の向上を図る能力 を育て，公正，協力，責任，参画などに対する意欲を高め，生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	１学期…トレーニング実技、ソフトボール、グランドゴルフを行う。 ２学期…スポーツクライミング、バスケットボールを行う。 ３学期…卓球を行う。 各学期でスポーツ理論を行う。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方について理解している。 運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、表現するための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けるとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題解決に応じた運動の取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習を主体的に取り組もうとする。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組みで判断する。
教科書、教材など	なし		
授 業 形 態	２クラスでの合同授業（男女）		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	スポーツ理論	トレーニング計画 トレーニング理論	6	・運動の特性に応じたトレーニング方法、トレーニング計画の知識を身に付け、豊かなスポーツライフをおくる。	授業態度・実技テスト・期末考査を総合して評価する。
	5	トレーニング実技	筋力・持久力・走力・柔軟性・バランス感覚	10	・専門的なトレーニング、最新のトレーニング方法を実際に行い、自身や仲間の体力を高めるための運動を合理的に行えるようにする。	
	6	球技	ソフトボール	10	・状況に応じたバット操作と打球に応じた進塁ができる。 ・安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開することができる。	
	7	校外実習	グランドゴルフ	25	・グランドゴルフのルールや歴史などを学び、コースで実践できる。	
	8					
2	9	球技	バスケットボール	20	・ドリブル、パス、シュートの復習を行う。 ・状況に応じたポール操作と仲間と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	
	10	校外実習	スポーツクライミング	4	・スポーツクライミングのルールや見どころなどを知る。体の使い方や安全面で気をつけることを理解して実践する。	
	11	球技	卓球	14	・サーブ、スマッシュ、バックハンド等基本技術を身に着ける。 ・技術を向上させながら、試合展開を学び実践に生かす。	
	12					
	1					
3	2					
	3					
備考：			合計	87		

教　科　名	家庭	科	生活産業基礎	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年調理	履修	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業への関心を高め、必要な知識と技術を進んで習得し活用する意欲と態度を育てる。				
学習内容の概要	家庭学科における必修科目として、衣食住やヒューマンサービスなどの生活産業に関する学びをとおして、専門科目の学習への動機づけや、卒業後の進路に向けて意識を深めることをねらいとする科目である。人々の生活を支える生活産業への理解を深めるとともに、衣食住やヒューマンサービスに関する職業について、身近な題材をとおして主体的に学習することにより、その知識や技術を職業人として役立てようとする意欲と態度を育てる。				
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	・生活産業の各分野における情報の意義や役割，情報モラル，セキュリティ，プログラミングや情報通信ネットワークを理解することができる。 ・情報技術を適切に活用できるようメディアの特性やコミュニケーションの方法，プログラミングやモデル化の方法などを基礎から順序立てて，情報及び情報技術について幅広く科学的に理解することができる。	・衣食住，保育，家庭看護及び介護などのヒューマンサービスに関わる情報を情報機器や情報通信ネットワークを活用し，収集，処理，分析することができる。 ・生活の質の向上や社会の発展を目指す職業人であることを意識して，職業人に求められる倫理観をもって，複数の情報と結び付けて新たな意味を見いだすことができる。	・積極的に情報機器や情報通信ネットワークを活用することや，自らの専門性の向上を図るために，主体的に学ぶことができる。 ・職業人として生活の質の向上と社会の発展のために，自ら考え行動するとともに，周囲の人々と協働して取り組むことができる。		
評価方法	定期考査・ノート・課題（プリント・ワークシート・感想文）	授業態度・ノート・課題（プリント・ワークシート・感想文）・発表	授業態度・ノート・課題（プリント・ワークシート・感想文）		
教科書、教材など	実教出版　「生活産業基礎」				
授 業 形 態	一斉授業				

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）
1	4	「生活産業基礎」を学ぶ	私たちの生活と「生活産業」	8	・価値観やライフスタイル、ニーズの多様化について理解する。 ・生活産業の役割と発展について理解する。
	5		「生活産業」のスペシャリストになるために		
		生活に対応した商品・サービスの提供	消費者ニーズの把握	10	・消費者のニーズをとらえることの重要性を理解する。 ・消費者アンケートを作成する。
	6		商品・サービスの企画・開発及び販売・提供		・新商品やサービスの開発について考える。
	7	期末考査	関連法規		・法令や法令遵守の重要性について理解する。
		食生活関連分野の産業と職業	食生活の変化と生活産業のかかわり	18	・食生活の特徴と現代的課題を理解する。 ・食生活や食に対する価値観の変化について理解する。
	8				・食生活に関する産業についての理解を深める。
	9				・食関連の消費者ニーズや消費行動について考える。
			食生活関連産業の職業と資格		・食に関する資格や職業について興味・関心を持つ。
	10				
		ヒューマンサービス関連分野の産業と職業	社会の変化とヒューマンサービス	8	・少子高齢化、ライフスタイルや価値観の変化・多様化と社会の変化について理解する。 ・社会化されたヒューマンサービスの意義と役割を理解する。
	11				・ヒューマンサービスに関する資格や職業について知る。
			ヒューマンサービス関連産業の職業と資格		
		衣生活関連分野の産業と職業	衣生活の変化と生活産業とのかかわり	6	・衣生活に関する産業の意義と役割を理解する。 ・ライフスタイルの変化とファッションの多様化について考える。
	12	期末考査	衣生活関連産業の職業と資格		・衣生活に関する資格や職業について知る。
		住生活関連分野の産業と職業	住生活の変化と生活産業とのかかわり	6	・住生活に関する産業の意義と役割を理解する。 ・ライフステージに合わせたライフスタイルについて考える。 ・住生活に関する資格や職業について知る。
			住生活の変化と住生活関連産業の職業と資格		
	1	職業生活と自己実現	職業生活と生きがい 将来の生活と学業	14	・働くことの意義を理解し、意欲・関心を高める。 ・職業人として求められる資質・能力、役割、責任について考える。
	2				
	3	学年末考査			・自身の職業生活について考え、そのための学習の目標を再確認する。
備考：			合計	70	

教　科　名	家庭科	科目名	食品衛生	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	食物は人に対して食中毒等の健康被害をもたらし、場合いによっては生命を左右することがあるため これを認識し理解する				
学習内容の概要	食中毒の原因物質となる病原微生物や寄生虫、化学物質などの性状や毒性を学び、その対処方法や予防方法などと調理師自身の健康管理の重要性を学習し、HACCPの精神を導入するなど「清潔で衛生的な食品の取り扱い」を学び、今日盛んに提唱されている「食の安全・安心」を提唱できる確かな基礎知識が身につくように学習する。				

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	食品に由来する微生物の種類、増殖条件や健康危害を理解してその知識を積極的に活用しようとする。	食中毒の基礎知識を理解し、科学的な知識や手法が食品衛生対策上、理解した上で判断力がある。事象を考察し，表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け，よりよく問題を解決する	食品衛生における基本的な概念､微生物の知識を得､調理師として食中毒予防に努める基礎知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査

教科書、教材など	食品衛生（全国調理師養成施設協会）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
1	4	飲食による健康危害の種類	細菌性食中毒	25	細菌の種類．原因．症状など又食品内毒素の食中毒などを学び理解させる	観察 考査
	5					
	6	中間考査				
	7					
		期末考査				
2	9			30		
		中間考査				
	10		ウイルス性食中毒		ウイルスの種類．原因．感染．症状などを学び理解させる	観察
3	11					考査
		期末考査				
	12					
	1					
	2			15		観察
	3	学年末考査				考査
備考：		合計		70		

教　科　名	家庭科	科目名	栄養	単位数	３単位
対 象 学 年	第２学年栄養	履修形態		科目ｺｰﾄﾞ	
科 目 の 目 標	調理師を目指すため、調理師の社会的使命として社会的に重い職業であることを理解させ理論を学習する				
学習内容の概要	食文化継承の役割を担う。技や腕だけでなくおいしさの理由を理論として学び素材に用いる食品の知識を得、栄養と体との関係を理解させ衛生的で安全な調理ポイントを学習し、調理に携わる職人として多岐にわたる見識と教養を身に付けさせる				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
	栄養状態の改善の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び，健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	食生活の現状から栄養に関する課題を発見し，栄養面で健康の保持増進を担う職 業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う 栄養素の機能と代謝，各ライフステージにおける栄養，労働・スポーツと栄養などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けようとする	栄養における基本的な概念、食品の知識を得栄養と体との関係を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察 課題の提出など.	授業中の話し合い、発表、定期考査、小テストなど 献立作成、栄養価計算、定期考査など	定期考査、小テストなどによる評価
教科書、教材など	食品と栄養の特性（全国調理師養成施設協会）		
授 業 形 態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	栄養素の機能と健康	栄養と健康	35	栄養素の種類について理解する 食品の成分と体の成分について理解する	提出課題・小テスト・定期考査の成績を総合して評価
			炭水化物			
	5				炭水化物の種類について理解する	
			脂質			
	6				脂質の種類について理解する	
			たんぱく質			
	7				たんぱく質の種類について理解する	
			ビタミン			
					ビタミンの種類について理解する	
	8		ミネラル			
					ミネラルの種類について理解する	
			その他の成分			
	9				水分、機能性成分について理解する	
2		献立作成	献立作成の方法と検討	20	献立を制作にあたり組み立て方（季節、状態、地域）	
	10		・献立とは ・作成方法 ・内容の検討		など食事の流れなど基本、また例などを元に学び理解する	
	11				食品の摂取について理解する	
		消化と吸収	食品の摂取	10	生理的欲求、心理的欲求、栄養管理について理解する	
	12				栄養素の消化、吸収、代謝について理解する	
			栄養素の消化・吸収・代謝			
	1				エネルギー代謝について理解する	
		エネルギー代謝と食事摂取基準	エネルギー代謝と食事摂取基準	20	エネルギー摂取量とエネルギー消費量について理解する	
3	2				日本人の食品摂取基準について理解する	
			日本人の食品摂取基準	15	食事摂取基準の指標について理解する	
	3		食品の選択	10	食品標準成分表について理解し、栄養価計算ができるようになる 食品分類法について理解する 食事バランスガイドについて理解する	
備考：			合計	105		

教　科　名	家庭科	科目名	調理実習	単位数
対 象 学 年	第２学年調理	履修形態	必須	科目ｺｰﾄﾞ
科目の目標	１年時に学んだ基礎的な調理を応用しプロとして使える技術と知識を身につけ、調理師にとって大切な心構えや礼儀なども高めていく			
学習内容の概要	１年時に学んだ基礎を応用し、より正確によりレベルの高い技術、知識を磨き、集中力や強調性も高められるように班別学習を通して学んでいく。			

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	実習や授業に向かう態度や動きが良好で、食材や料理に対する関心をもっている。	試食や味の違いについて研究している。実習中に味の濃い薄いについて調整している。進行状況を把握し、時間をみて動けている。お客様に提供する事を常に意識し、包丁、まな板の扱いが丁寧で最終的に盛りつけが美しく盛れている。	行程や知識がより実践的になる中で意識の高さや知識を磨いている。
評価方法	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。 試食の際の盛りつけや作業中の片付け具合等の観察で評価する。	A・B・C・D・E 5・4・3・2・1 技術テストにより 評価する

教科書、教材など	新調理師養成教育全書　必修編　調理実習、調理実習レシピなど
授 業 形 態	一斉、班別学習

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	①　一年時の復習をかねて	食材の切り方 包丁の使い方	8	･1年時の復習をかねてだし、ブイヨンの取り方や包丁の使い方をももう一度理解する。	授業中の行動、取り組み方の観察や技術考査などにより評価する。
		②　イタリアン	オイルベースのパスタ	10	・パスタのゆで方、乳化の仕方を理解する。	
	5		調理用語		・フランス料理、イタリア料理の調理用語を理解する。	
		③　フレンチ	野菜の切り方 シャトー剥き	12	・フランス料理のカットの仕方（シャトー剥きなど）を反復練習して技術習得を目指す。	
	6	④　日本料理	巻き寿司 煮物	14	・巻き寿司の練習する。 ･煮物の炊き方、料理にあう魚の処理の仕方を学ぶ。	
		⑤　焼き菓子	オーブンの使い方		・焼き菓子で使う器具の使い方を理解し、オーブンの温度の調整や食材の特性を学ぶ。	
	7	技術テスト				
		⑥　大掃除	床掃除	2	・普段手入れの行き届かないところの掃除を徹底し、調	
2	8	⑦　西洋料理のオードブル	食材のマリネなど	6	理師としての自覚を養う。	
	9				・西洋料理の前菜をおいしく美しく作り実際に提供する事を意識して調理師としての意識を高める。	
		⑧　栄養学、食品学を取り入れて	生徒が考えた献立を生徒が試作し発表し調理する	12	･計画をしっかりと立て調理を通してチームワークや実践力を高め集団調理実習を理解する。	
	10	⑨　中華飾り切りなどゲストティチャーを招いて	中華の食材の切り方 特殊材料とその扱い方	12	・講師を招いて中華料理の技法、食材、香辛料について専門的に学ぶ。	
	11	⑩　卵料理	オムレツの巻き方	6	・火力、技術をうまく使い調理師はオムレツができないと一人前でないとさえいわれる料理の習得を目指す。	
		⑪　スイーツ	製菓の器具、食材の扱い方	4	・ホイッパーをうまく使い形のよい生菓子仕上げる	
	12	⑫　包丁の技術向上	煮物	10	・料理のあしらいやガルニ作りを季節感を意識しながら	
		⑬　だしを使った料理	ソース作り	10	包丁を使って調理する	
3		技術テスト				
	1	⑭　大掃除	床掃除	2	・普段手入れの行き届かないところの掃除を徹底し、調	
		⑮　揚げ物	天ぷら、フリット	8	理師としての自覚を養う。	
		⑯　煮物	煮付け、炊き合わせ	4	・季節なども意識しながら煮炊きする火加減、味加減や	
		⑰　飯物	赤飯、炊き込みご飯	4	油の温度調節、寿司の握り方を学び理解し調理師として	
	2	⑱　寿司	にぎり、軍艦	4	精神力を高め技術向上し調理師として実習を行う。	
		⑲　西洋料理ソースを使った料理	ポワソン、ヴィアンド	14	・ヒュメドポワソンやフォンドボーなどを使い食材に合わせたソースの作り方を理解する。	
	3	技術テスト		2		
		⑳　大掃除	床掃除		・普段手入れの行き届かないところの掃除を徹底し、調理師としての自覚を養う。	
備考：			合計	144		

教　科　名	家庭科	科目名	調理理論	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	調理師を目指すため、調理師の社会的使命として社会的に重い職業であることを理解させ理論を学習する				
学習内容の概要	食文化継承の役割を担う。技や腕だけでなくおいしさの理由を理論として学び素材に用いる食品の知識を得、栄養と体との関係を理解させ衛生的で安全な調理ポイントを学習し、調理に携わる職人として多岐にわたる見識と教養を身に付けさせる				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
	食文化の継承や調理師の使命としての知識や役割を学ぶ	美味しいもの、安全なものを考える、人々の健康を維持する 伝統調理技術､調理様式などを受け継ぎさらに新たな調理法を創造する	人々の健康、生命の維持、食の安全など社会的に重い職業である
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察	授業中の取り組みの状態、テストなどによる評価	テストなどによる評価

教科書、教材など	調理理論と食文化概論（全国調理師養成施設協会）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	食品の調理科学	植物性食品 ・豆類	20	食品と栄養の特性を理解させる 豆類、種実類、野菜類、果実類、きのこ類、藻類などの特性や栄養、成分、利用法などの要点をまとめ、理解する	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価
	5	中間考査	・種実類			
	6		・野菜類			
	7		・果実類			
2	8		・きのこ類			
		期末考査				
	9		・藻類			
	10	中間考査	動物性食品 ・魚介類	35	動物性食品の調理操作、栄養、保存の仕方など要点をまとめ、理解する	
	11		・食肉類			
		期末考査	・卵類		卵類、乳類の調理操作、特徴、成分などの要点をまとめ、学習し、理解する	
	12		・乳類		牛乳、乳製品などの加工、調理操作、成分などをまとめ、理解する	
			その他の食品 ・油脂類 ・調味料 ・ゲル状食品			
3	1	調理設備・器具と熱源	調理施設・設備とは	15	調理器具･施設･設備についての特徴や使用方法など要点をまとめ、理解する	
		学年末考査				
	2				料理の種類によって器具や食器が違うことを理解する	
	3					
備考：		合計		70		